

令和4年度

掛川市二の丸美術館

掛川市ステンドグラス美術館

年報

掛川市二の丸美術館

掛川市ステンドグラス美術館

はじめに

令和4年度掛川市二の丸美術館・掛川市ステンドグラス美術館年報を刊行いたします。

3年に及ぶ世界的なコロナ禍も収束の兆しが見え始めましたが、人々の動きは鈍く私どもの美術館でも令和4年度の美術館利用者の減少が心配されました。しかしながら市民に関心の高い展覧会の開催により、予想を上回る方々がご来館いただきました。

いつ、いかなる時におきましても常に人々の美術に対する関心はあり、それに応じた美術館活動が必要であることを改めて認識させられました。

さて、今年度の美術館活動を概観してみることとします。

所蔵品の展覧会関係では、木下コレクションの細密工芸品は「現代着物と帯留め物語」展（4月16日～6月12日）、「男も女も装身具Ⅱ」展（令和5年3月18日～5月14日）を開催しました。単なる工芸品の展示だけでなくテーマを設けることにより、着物姿の方も多くみられました。

鈴木始一氏からご寄贈いただいた近代日本画は「近代日本画—日本の美を求めて—」展（6月18日～7月24日）でご覧いただきました。日本画は心が落ち着くと話される方もおられます。中には重要な作品もあり、当館で一層調査を進め、その価値を見直す必要があります。

「2022 掛川市民アートフェスタ」として市民芸術祭 優秀作品展とスケッチ画公募展さらに新収蔵品展を開催しました。

企画展関連では、夏に「山下清が描く東海道五十三次」展（8月4日～10月2日）を開催し多くの方々にご覧いただきました。昭和年間に山下清展が、駅前のスーパーで開催され、また、掛川西高校でも開催され、その時、山下清本人も来たと話される方もおられました。山下清の人気は一種の国民的な画家としてブームとなりましたが、今日でも多くの人々に関心を持たれていることは驚きです。掛川宿の場面ではお城を描いていますが、懐かしい風景で、以前の掛川城を知っている人々から親しみをもって見られました。

掛川市には高天神城、横須賀城、掛川城があり、毎年、地域の歴史遺産を発掘する展覧会を開催してきましたが、今年度は「事任八幡宮と日坂宿-事任八幡宮の宝物と日坂ゆかりの人々-」展として事任八幡宮と日坂ゆかりの文人たちを紹介しました。郷土の歴史と文化を知ることは誇りと将来への自信につながってゆきます。児童生徒はもとより一般の方々にも美術館が身近な存在になるような企画が必要と強く感じています。

令和5年のNHK大河ドラマは「どうする家康」ということで「徳川家康と掛川三城ゆかりの武将物語」（1月28日～3月12日）として家康とゆかりのある人物や遺品などを紹介する展示を行いました。コロナ騒ぎの最後の時期でありましたが、多くの方々にご来館いただきました。

年間3万人を超える入館数は平成21年度以来です。教育普及事業、収益事業ともに入館者数の増加とともに望ましい成果を上げてきております。今後も地域の美術館としての使命を果たしてゆくよう努めてゆきますので、よろしくご支援いただけましたら幸いです。

令和5年8月

掛川市二の丸美術館
掛川市ステンドグラス美術館
館長 日比野 秀男

目次

①	二の丸美術館 展覧会一覧	1
②	二の丸美術館 展覧会	
1	掛川藩・横須賀藩の文化教養の原点 - 御用絵師と藩校教授	2
2	現代着物と帯留物語 - 江戸から明治・大正・昭和まで	7
3	近代日本画展 - 日本の美を求めて	10
4	山下清が描く東海道五十三次 - 放浪の天才画家 山下清 最後の大作	14
5	事任八幡宮と日坂宿 - 事任八幡宮の宝物と日坂ゆかりの人々	19
6	2022 掛川市民アートフェスタ 掛川市民芸術祭 優秀作品展 二の丸美術館 新収蔵品展	25
7	徳川家康と掛川三城ゆかりの武将物語 - 戦国の世から悩み、苦しみ、生き抜いた武将たち -	29
8	男も女も装身具Ⅱ - 江戸から明治・大正期の技とデザイン -	35
③	教育普及活動	
1	スケッチ画公募・作品展	37
2	令和4年度 文化庁伝統文化親子教室事業	40
3	ステンドグラス美術館 ナイトミュージアム・イルミネーション	43
④	ステンドグラス美術館 体験講座	45
⑤	調査研究	
1	館蔵資料保存・整理の状況	49
2	資料貸出・利用	50
3	新収蔵資料	50
4	資料修復	54
⑥	管理運営	
1	入館者数統計	55
2	組織・決算	59
3	令和4年度 美術館協議会	60



美術館講座

「事任八幡宮の歴史」

事任八幡宮の歴史 天野 忍 1

研究紀要

八木 美穂『郷里雑記』の諸本について 9



①令和4年度 二の丸美術館 展覧会一覧

No.	展覧会名	会期	開館 日数	入館者数(人)		
				有料	無料	計
1	掛川藩・横須賀藩 文化教養の原点 -御用絵師と藩校教授-	4/1 ~ 4/10	10	195	127	322
2	現代着物と帯留物語 -江戸から明治・大正・ 昭和まで-	4/16 ~ 6/12	55	2,406	1,235	3,641
3	近代日本画展 -日本の美を求めて-	6/18 ~ 7/24	34	1,248	254	1,502
4	山下清が描く東海道 五十三次 -放浪の天才画家 山下清 最後の大作-	8/4 ~ 10/2	56	5,450	1,753	7,203
5	事任八幡宮と日坂宿 -事任八幡宮の宝物と 日坂ゆかりの人々-	10/8 ~ 12/4	54	1,555	521	2,076
6	2022 掛川市民 アートフェスタ 掛川市民芸術祭 優秀作品展 二の丸美術館 新収蔵品展	12/10 ~ 1/22	38	104	3,734	3,838
7	徳川家康と掛川三城 ゆかりの武将物語 -戦国の世から悩み、苦し み、生き抜いた武将たち-	1/28 ~ 3/12	42	0	10,397	10,397
8	男も女も装身具Ⅱ -江戸から明治・大正期 の技とデザイン-	3/18 ~ 3/31	13	793	329	1,122
令和4年度 計			302	11,751	18,350	30,101



②-1 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会
掛川藩・横須賀藩文化教養の原点
－御用絵師と藩校教授－

1 概要

江戸時代、掛川市には掛川藩・横須賀藩の二つの藩が存在した。掛川藩は、1746年（延享3）に太田資俊が入封以来、幕末まで七代123年にわたり太田家が藩主を務め、横須賀藩は、1682年（天和2）に西尾忠成が入封以来、八代186年にわたり西尾家が藩主を務めた。

本展では、太田侯・西尾侯が遺した貴重な歴史資料を紹介するとともに、藩主に仕えていた御用絵師（掛川藩・村松以弘、横須賀藩・大久保一丘）と藩校教授（掛川藩・松崎慊堂、横須賀藩・八木美穂）に焦点を当てた展示を行い、あわせて江戸後期に編纂された両藩の地誌（掛川誌稿、郷里雑記）を紹介した。

当時の両藩の様子を知るとともに、どのような人物によりどのような教育がなされていたかを知り、優れた文化教養に触れる機会となることを期待し本展を開催した。

- (1) 会 期 4月1日（金）～4月10日（日）〔開館日数10日間〕
 (2) 会 場 掛川市二の丸美術館（第1展示室・第2展示室）
 (3) 入館料 高校生以上 200円、中学生以下 無料

(4) 入館状況

参考：令和3年度・4年度 会期合計数

総入館者数	322人		令和3年度	会期中合計
有料入館者	195人	総入館者数	1,821人	2,143人
無料入館者	127人	有料入館者	1,336人	1,531人
1日平均者数	32.2人	無料入館者	485人	612人
		1日平均者数	47.9人	44.6人

(5) 関連イベント

◆作品解説「掛川誌稿と郷里雑記」

日 時 4/2（土）14:00～14:30

講 師 木佐森 道弘 氏（掛川市立大東図書館）

参加者 10名

2 経緯

近年の掛川三城や藩主に関連した展覧会を土台とし、本展では藩主に仕えた御用絵師（村松以弘・大久保一丘）と藩校教授（松崎慊堂・八木美穂）に焦点を当てた展示を行った。これまで開催した展覧会の調査をいかしつつ、新たな調査結果を加え、内容をより深化させたものとして開催。



3 目的

焦点を絞った展示とすることで、それぞれの人物はもちろんのこと、周辺人物にも触れ著作物、作品をより深く掘り下げることを目的とした。また、本展が今後同種の展覧会の開催へと繋がることを期待し開催した。

4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団（掛川市二の丸美術館）／掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会／静岡新聞社・静岡放送／中日新聞東海本社

5 参考 添付データ

(1) 主な展示作品

第1展示室 太田家、西尾家ゆかりの大名道具他、掛川誌稿（4種）、郷里雑記（2種）など22点

第2展示室 村松以弘、大久保一丘の絵画作品、松崎慊堂、八木美穂の書、掛川藩校関連資料など32点

作品リスト

【第1展示室】

No	資料または作品名	作者	時代	所蔵	備考
藩主の美意識・教養					
1-1 掛川藩主・太田侯					
1	銀地鳳凰図象嵌鏡		江戸時代	当館	太田家伝来
2	松竹梅蒔絵鞍		江戸時代	当館	太田家伝来
3	大食籠(おおじきろう)		江戸時代	当館	太田家伝来
4	太田備後守資始の書	太田資始	江戸時代	当館	太田家伝来
5	太田備後守資言の書「翫」	太田資言	江戸時代	当館	太田家伝来
1-2 横須賀藩主・西尾侯					
6	亀図	西尾忠受	嘉永6年(1853)頃	当館	西尾家伝来
7	棗(なつめ)・お椀・筆箱		江戸時代	個人	
8	櫛台(化粧台)		江戸時代	個人	
9	銅製釣燈籠		元禄10年(1697)	天宮神社	森町指定文化財
10	天宮神社 棟札		元禄10年(1697)	天宮神社	静岡県指定文化財
1-3 藩領地誌の作成					
1-3-1 掛川藩・掛川誌稿					
11	掛川誌稿 山崎八峰・常磐旧蔵本	斎田茂先・山本忠英 (校閲石川依平、榛葉清陰他)	江戸時代	大日本報徳社	
12	掛川誌稿 松ヶ岡・山崎家旧蔵本	斎田茂先・山本忠英	江戸時代	掛川市	
13	掛川誌稿 松ヶ岡・山崎家旧蔵本	斎田茂先・山本忠英	江戸時代	掛川市	
14	掛川誌稿 岡田家旧蔵本	斎田茂先・山本忠英 (岡田良一郎筆写)	慶応4年(1868)	大日本報徳社	
1-3-2 横須賀藩・郷里雑記					
15	郷里雑記 八木美穂自筆本	八木美穂	江戸時代	個人	
16	郷里雑記 榛葉清陰写本	八木美穂	文久元年(1861)	大日本報徳社	
17	遠江鈔出	榛葉清陰	嘉永元年(1848)	個人	
1-4 遠江国・掛川城					
18	遠江国掛川城天守台石垣芝土手崩所絵図		嘉永4年(1851)	当館	
19	遠江国掛川城地震之節損所之覚図		安政2年(1855)	当館	掛川市指定文化財



20	掛川城御殿古図		嘉永7年(1854)	個人	掛川市指定文化財
21	遠江国十二郡千六十三村図		弘化3年(1846)	当館	

【第2展示室】

二つの藩の絵師と教授					
2-1 御用絵師 -掛川藩・村松以弘 横須賀藩・大久保一丘					
22	唐美人図	村松以弘	江戸時代	常葉大学附属常葉ギャラリー	
23	秋景山水図	村松以弘	江戸時代	常葉大学附属常葉ギャラリー	
24	秋草図	村松以弘	江戸時代	常葉大学附属常葉ギャラリー	
25	董法山水図	村松以弘	文化4年(1817)	当館	掛川市指定文化財
26	宇洞山眺望図	村松以弘筆 太田資始画題	江戸時代	個人	
27	(資料)伊豆沿海真景図フィルム及び解説書『伊豆沿海真景図』			掛川市	
28	四季花鳥図屏風	大久保一丘	江戸時代	掛川市	
29	真人図	大久保一丘	江戸時代	撰要寺	静岡県指定文化財
30	真人図	大久保一丘	江戸時代	個人	
31	真人図	大久保一丘	江戸時代	個人	
32	富士三保松原図 扁額	大久保一丘	江戸時代	個人	
33	富士三保松原図 扁額	大久保一丘	江戸時代	個人	
34	富士三保松原図 扁額	大久保一丘	江戸時代	個人	
35	萩に菟図 扁額	大久保一丘	江戸時代	個人	
36	恵比寿図	大久保一丘	江戸時代	個人	
2-2 藩校教授 -掛川藩・松崎謙堂 横須賀藩・八木美穂-					
37	旧松尾藩学制沿革概略	不詳	明治初期	当館	太田家伝来
38	謙堂先生臨素公千字文	松崎謙堂	天保2年(1831)	当館	太田家伝来
39	五倫口解	松崎謙堂	明治3年(1870)	当館	
40	瀑布白糸真圖不二峰詩(対幅)	村松以弘・松崎謙堂	江戸時代	個人	
41	謙堂先生遺墨	松崎謙堂	明治22年(1889)版	個人	
42	葦牙増註	八木美穂	江戸時代	賀茂真淵記念館	写本
43	中林詠草	八木美穂	江戸時代	賀茂真淵記念館	写本
44	長歌私編	八木美穂	江戸時代	賀茂真淵記念館	写本
45	磯之松	八木美穂	江戸時代	大日本報徳社	自筆本
46	子弟訓		江戸時代	賀茂真淵記念館	
47	八木美穂和歌「朝霜」	八木美穂	江戸時代	佐都加文庫(大東図書館)	
48	八木家印類		江戸時代	賀茂真淵記念館	
49	八木家日記(9冊)		江戸時代	賀茂真淵記念館	
50	八木美穂書簡 石川依平あて	八木美穂	江戸時代	賀茂真淵記念館	
51	美穂・依平・真龍・龍麿書簡		江戸時代	佐都加文庫(大東図書館)	
52	美穂 短冊		江戸時代	翠亭文庫・佐都加文庫(大東図書館)	
53	石川依平翁像	画:羽鳥春隆 賛:石川依平	江戸時代	佐都加文庫(大東図書館)	
54	常盤雪行図 石川依平賛春隆画	画:羽鳥春隆 賛:石川依平	江戸時代	賀茂真淵記念館	



(2) 会期中の普及啓発活動

① ポスター (B2/150 枚)

チラシ [左 / 表面、右 / 裏面] (A4/8,000 枚)



②鑑賞ガイド (A5三ツ折り 500部)





③報道機関等の取材（掲載記事）



すろ～かる 2月



静岡新聞
3月10日（木）

(3) 記録写真

①美術館外観



②エントランス後援表示



③ 第1展示室



④ 第2展示室



⑤ 2F 廊下



⑥ 作品解説





②-2 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会

館蔵品展

現代着物と帯留物語－江戸から明治・大正・昭和まで－

1 概要

収蔵品「木下コレクション」の帯留金具と、現代の着物や帯を合わせた異色の取り合わせの展覧会。あえて時代の違う作品を合わせることで、その共通点や日本人の変わらぬ美意識を探ることを目的とした。「木下コレクション」には、彫金細工による帯留金具が多数存在している。これらは、江戸時代から昭和初期にいたるまで長きにわたり用いられてきた女性の装身具のひとつである。現在では、時代の変遷にともない帯留金具の使用頻度は減少してきているものの、和装における仕上げの要として用いられている。

今回は、江戸時代の彫金技法を受け継ぐ様々なデザイン・技法の帯留金具を、現代着物（帯）とコラボして展示した。テーマを決めてそれぞれの物語を解説、時代を経ても色褪せない女性の装身具を紹介した。

上の展示室では、約20枚の帯と帯留金具約100点余りを展示。下の展示室では、男性の装身具である煙草道具（煙草入れ・きせるなど）約150点を展示した。

【新たな取り組み】

- ①山本和子氏（大国屋店主）に着物・帯を借用し、いつもの木下コレクションに現代作品を投入した展覧会とした。
- ②本展覧会に限り、着物でご来館のお客様を観覧無料とした（羽織・浴衣含む）

(1) 会 期 4月16日（土）～6月12日（日） [開館日数55日間]

(2) 会 場 掛川市二の丸美術館（第1展示室・第2展示室）

(3) 入館料 高校生以上 200円、中学生以下 無料

※本展示に限り、着物でご来館の方観覧無料とした（羽織・浴衣も含む）

(4) 入館状況

総入館者数	3,641人
有料入館者	2,406人
無料入館者	1,235人（うち着物入場者数200人） 6/6無料開放日 62人
1日平均者数	66.2人

(5) 関連イベント

◆作品解説「楽しくトーク細密工芸美術！」

日 時 4/30（土） 14：00～14：30

解 説 当館学芸員

参加者 12名



2 経緯

故木下満男氏より、たばこ道具をはじめ、印籠、刀装具、金工品、細密工芸品など約 2,300 点と美術館建設資金の寄付を受けている。平成 10 年 4 月の開館時より、これらの工芸作品を公開する展覧会を毎年開催している。特に煙草道具を主とする工芸作品が充実している。展覧会に女性らしい華やかさを添えたく、今回は山本和子氏（大国屋）にご協力頂いて、着物と帯を十数点拝借した。当館では着物や帯の収蔵品は無く、また収蔵作品の帯留金具とコラボしたはじめての展覧会であった。

3 目的

開館 24 年目を迎え、成熟した美術館として、市民の創造的な文化芸術活動を支えるべく、地道な研究の成果と高度な専門知識に裏付けられた質の高い展覧会を開催する。また細密工芸分野（特に煙草道具）としても大変貴重である「木下コレクション」をより広く知って頂くとともに、作品を良好な状態で保存し後世に継承してゆくことを目的とした。

4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団（掛川市二の丸美術館）／掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会／静岡新聞社・静岡放送／中日新聞東海本社

5 参考 添付データ

（1）主な展示作品

- 第 1 展示室 帯留約 100 点・着物 1 枚・帯 18 本（着物・帯は山本和子氏所蔵）
- 第 2 展示室 煙草入れ・きせるなど約 150 点ほか細密小物

作品リスト

第 1 展示室

山本和子氏所蔵 帯 18 本	山本和子氏所蔵 着物 1 着
帯留金具 100 点（金具のみ・帯紐含む）	

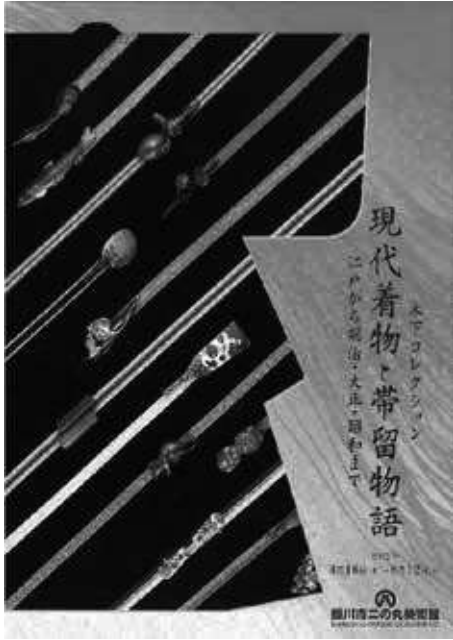
第 2 展示室

煙草入れ 85 種	きせる 35 種 ・ きせる筒 6 種
根付 25 種	緒締玉 23 種
銚鎖 22 種	ほか細密小物



(2) 会期中の普及啓発活動

チラシ表面 (A4/6,000枚)



(チラシ裏面)



(3) 記録写真

① 2F エントランス後援表示



② 2F 展示室 全体



③ 2F 展示ケース作品



④ 1F 展示ケース作品



⑤ 1F 展示ケース作品



⑥ 1F 展示ケース作品





②-3 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会
館蔵品展 近代日本画展－日本の美を求めて－

1 概要

当館所蔵品の近代日本画を中心に紹介する展覧会。実業家 故 鈴木始一氏旧蔵によるもので、横山大観や竹内栖鳳、川合玉堂など明治から昭和にかけて活躍した画家が描いた四季折々の日本画の美を紹介。

加えて本展覧会では、花や生き物、風景など作品のテーマが共通する工芸品を組み合わせ展示し、見比べながら双方の魅力を紹介した。

(1) 会 期 6月18日(土)～7月24日(日)〔開館日数34日間〕

(2) 会 場 掛川市二の丸美術館(第1展示室・第2展示室)

(3) 入館料 高校生以上 200円、中学生以下 無料

(4) 入館状況

総入館者数	1,502人
有料入館者	1,248人
無料入館者	254人
1日平均者数	44人

2 経緯

掛川市は実業家 故・鈴木始一氏から近代日本画44点の寄贈を受け、煙草道具を中心とする細密工芸品とともに当館の主軸コレクションをなしている。所蔵品を活かし多くの方に紹介するため、開館当初より年に一度のペースで展覧会を開催している。

3 目的

掛川市が所蔵するコレクションを多くの方に知っていただき、それぞれの作品が持つ魅力、作者の紹介などを通じて美術に親しむ機会を増やす。今回は工芸と組み合わせて展示し、少し視点を変えて見ることで今までとは異なる見え方、感じ方、双方の作品から新たなイメージが広がることを期待し展覧会を開催する。

4 体制

①主催 公益財団法人掛川市文化財団(掛川市二の丸美術館) / 掛川市

②後援 掛川市教育委員会 / 静岡新聞社・静岡放送 / 中日新聞東海本社

5 参考 添付データ

(1) 主な展示作品

第1展示室 日本画 10点、工芸品 4点

第2展示室 日本画 17点、工芸品 21点



作品リスト

第1展示室

No	作品名	作者	制作年	技法、形態
1	桜	前田 青邨	不詳	絹本着色、軸装
2	宋三彩劃花壺	山村 耕花	大正 10 年	絹本着色、軸装
3	赤銅牡丹図瓶掛け	桂 光春	大正	鉄地、金、銀、四分一、赤銅、素銅 他
4	桜に蝶図象嵌香炉	銘 後藤 光正 刻	明治	鉄、真鍮、素銅、銀 他
5	花鳥図芝山細工対花瓶		明治	木地に金漆、象牙、白蝶貝、珊瑚、 鼈甲 他
6	芥子螺鈿蒔絵手箱		明治～大正	木地に漆、金粉、銀粉、白蝶貝 他
7	罌粟	山村 耕花	不詳	絹本着色、軸装
8	初夏の花	結城 素明	不詳	絹本着色金泥、軸装
9	洋壺	小倉 遊亀	昭和 33 年	紙本金地着色、額装
10	猫柳	福田 平八郎	昭和 20 年代	紙本着色、額装
11	壺	前田 青邨	不詳	紙本着色、額装
12	カトレア	堅山 南風	不詳	絹本着色、額装
13	花	北澤 映月	不詳	紙本着色、額装
14	桔梗	前田 青邨	不詳	紙本着色、額装

第2展示室

No	作品名	作者	制作年	技法、形態
15	鏡獅子	伊東 深水	昭和 15 年頃	絹本着色、軸装
16	蝶尽象嵌象牙櫛	銘 逸矣	江戸後期～明治	象牙、鼈甲、珊瑚、琥珀 他
17	簪（平打簪、玉簪、びらびら簪）		明治～大正	金、銀、真鍮、珊瑚 他
18	柿実餞鴉図・枯木寒鴉図	竹内 栖鳳	明治 34 年	紙本水墨、軸装
19	鉄地烏図象嵌		明治	鉄、四分一、金、銀
20	象牙白鷺図象嵌芝山細工紙巻き 煙草入れ		明治	象牙、白蝶貝 他
21	桑地竹に鶴図螺鈿蒔絵茶道具入 れ		大正	木地に漆、白蝶貝、金粉 他
22	籐変わり編み腰差し煙草入れ		大正	籐、ガラス 他
23	魚籠形竹松葉編み腰差し煙草入 れ		大正	竹、籐、他
24	鷓鴣	川合 玉堂	昭和 8 年頃	絹本着色、軸装
25	夕月	川合 玉堂	昭和 6 年頃	絹本着色、軸装
26	海嘯	横山 大観	不詳	紙本着色、軸装
27	富士景物図象嵌手許筆筒	村瀬 祐珉	大正	金、銀、赤銅、四分一 他
28	松林図蒔絵平盆		大正	木地に漆、金粉 他
29	日本三景図蒔絵料紙手箱		明治	木地に漆、金箔、金粉、銀粉 他
30	安芸の宮島図蒔絵硯箱		明治	木地に漆、金箔、金粉、銀粉 他
31	狩の雨	川端 龍子	不詳	紙本着色、額装
32	赤城路之巻	速水 御舟	大正 5 年頃	紙本着色、額装



No	作品名	作者	制作年	技法、形態
33	萌春	東山 魁夷	不詳	絹本着色、額装
34	秋の山	小野 竹喬	昭和 25 年頃	絹本着色、額装
35	りんご	福田 平八郎	昭和 30 年頃	紙本着色、額装
36	生果競甘	岸田 劉生	昭和元年	紙本着色、額装
37	秋の実り	竹内 栖鳳	不詳	絹本着色、額装
38	双鯉	堅山 南風	不詳	紙本着色金泥、額装
39	金魚	奥村 土牛	昭和 26 年頃	紙本着色、額装
40	早春	奥村 土牛	昭和 26 年頃	紙本着色、額装
41	鳩	高山 辰雄	昭和 30 年代	絹本着色、額装
42	金唐革腰差し煙草入れ		明治～大正	
43	茶革腰差し煙草入れ		明治～大正	
44	杉立駒菖蒲革腰差し煙草入れ (個人蔵)		明治～大正	
45	金唐革腰差し煙草入れ		明治～大正	
46	蜻蛉菖蒲革腰差し煙草入れ		明治～大正	
47	茶革腰差し煙草入れ		明治～大正	
48	茄子に虫尽図置物(個人蔵)		明治～大正	鹿角 他
49	菊花文刺繍一つ提げ煙草入れ		明治～大正	
50	杉立駒菖蒲革腰差し煙草入れ		明治～大正	
51	唐花文更紗提げ煙草入れ		明治～大正	
52	茶罌革腰差し煙草入れ		明治～大正	

(2) 会期中の普及啓発活動

①ポスター (A2/150 枚)

チラシ表面 (A4/6,000 枚) チラシ裏面



②鑑賞ガイド 1,000 枚

「近代日本画コレクションⅣ」

〔結城素明、山村耕花、伊東深水〕



③ギャラリートーク 6/29 (水) 12 人、7/9 (土) 18 人 (解説 当館学芸員)



取材 静岡新聞、中日新聞、静岡朝日テレビ、テレビ静岡



静岡新聞 6月25日(土)



中日新聞 6月19日(日)

(3) 記録写真

① 美術館外観



② エントランス後援表示



③ 第1展示室(花)



④ 第2展示室(生き物・風景)



⑤ 作品の内側が見られるQRコード



⑥ 作品解説





②-4 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会

〈特別展〉生誕100周年記念 山下清が描く東海道五十三次 －放浪の天才画家 山下清 最後の大作－

1 概要

“放浪の天才画家”山下清 [1922 (大正 11) 年 -1971 (昭和 46) 年] が生誕 100 年を迎える本年、遺作となった「東海道五十三次」シリーズを版画で紹介する展覧会として開催した。本作品は、貼り絵で高い評価を得ていた清が、晩年のライフワークに選んだ題材で、放浪していた頃の思い出の詰まった東海道を、約 4 年間にわたり取材しスケッチした素描画がもとになっている。独特の語り口で表現される言葉とともに、清が目にした風景を彼の心の内を感じながら鑑賞いただいた。

- (1) 会 期 8月4日(木)～10月2日(日) [開館日数 56 日間]
- (2) 会 場 掛川市二の丸美術館 (第1展示室・第2展示室)
- (3) 入館料 高校生以上 500 円、中学生以下 無料
- (4) 入館状況

総入館者数	7,203 人
有料入館者	5,450 人
無料入館者	1,753 人
1日平均者数	128.6 人

(5) 関連イベント

◆ワークショップ「ちぎり絵の和ランプづくり」

日 時 8/13 (土) ① 10:00～、② 14:00～

講 師 入山 ひろ子 氏 (工房ひろこあ主宰)

参加者 26 人 (大人 13 人、子ども 13 人)

◆講演会「家族が語る山下清」※県民の日イベント

日 時 8/21 (日) 14:00～15:30

講 師 山下 浩 氏 (山下清作品管理事務所代表)

会 場 大日本報徳社 大講堂

参加者 91 人

◆ギャラリートーク

開催日 8/27 (土) 38 人、9/10 (土) 25 人

解 説 当館学芸員

◆ちぎり絵ワークショップ

開催日 9/23 (金・祝) 9 組 18 人、9/24 (土) 5 組 10 人

講 師 折り紙先生 莉乃 さん・ママバトン 杉山有希子 さん



◆展覧会ミニガイドツアー

日 時 9/25 (日) 23 人 9/27 (火) 26 人 ① 11:00 ~、② 14:00 ~
解 説 当館学芸員

2 経緯

山下清はテレビドラマ等で多くの方がその名を認知しており、彼が制作した緻密な貼り絵作品は大変評価を得ている。今年生誕百年という節目の年であり、また掛川市は東海道沿線に位置し、二つの宿場を擁していることから作品内容にも掛川が登場することからより身近に感じていただける内容として本作品展を開催した。

3 目的

認知度の高い作家の展覧会開催を通じて、日頃あまり美術に関心を持たない方にも美術館並びに作品に親しみを持っていただく機会となること、またドラマに描かれた清像ではなく、豊かな人間性をもつ素顔の山下清を知っていただくことを目的に開催した。

4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団（掛川市二の丸美術館） / 掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会 / 静岡新聞社・静岡放送 / 中日新聞東海本社

5 参考 添付データ

(1) 主な展示作品

東海道五十三次版画 55 点
放浪日記、絶筆のしおり、書籍『東海道五十三次』

作品リスト

第1展示室

No	作品名	画 寸	No	作品名	画 寸
1	皇居前広場 (東京)	270 × 350	11	箱根旧道 (箱根)	350 × 270
2	品川の海 (品川)	270 × 350	12	三島大社 (三島)	270 × 350
3	川崎大師 (川崎)	350 × 270	13	黄瀬川の下流 (沼津)	270 × 350
4	横浜中央通り (横浜)	270 × 350	14	白隠禅師の墓 (原)	270 × 350
5	第三京浜道路 (保土ヶ谷)	270 × 350	15	富士 (吉原)	270 × 350
6	わらぶき屋根 (戸塚)	270 × 350	16	山のちかい町 (蒲原)	270 × 350
7	遊行寺 (藤沢)	270 × 350	17	がけくずれ (由比)	270 × 350
8	こま山 (平塚)	270 × 350	18	清見寺 (興津)	270 × 350
9	松並木 (大磯)	270 × 350	19	羽衣の松 (清水)	270 × 350
10	春のお城 (小田原)	350 × 270	20	ゆったりした町 (静岡)	270 × 350



第2展示室

No	作品名	画寸	No	作品名	画寸
21	柴屋寺(丸子)	350×270	41	古い家ばかり(鳴海)	270×350
22	峠の景色(岡部)	350×270	42	熱田神宮(名古屋)	270×350
23	人の住む町(藤枝)	270×350	43	舟でくる町(桑名)	270×350
24	大井川(島田)	270×350	44	石油工場(四日市)	270×350
25	牧の原(金谷)	270×350	45	冬の寺(石薬師)	270×350
26	小夜の中山(日坂)	270×350	46	ふつうの景色(庄野)	270×350
27	小さな城(掛川)	350×270	47	城あと公園(亀山)	270×350
28	花の可睡(袋井)	270×350	48	本陣の門(関)	270×350
29	天龍川(磐田)	270×350	49	筆捨山(坂の下)	270×350
30	砂丘の風(浜松)	270×350	50	田村神社(土山)	350×270
31	弁天島(舞阪)	270×350	51	大岡寺(水口)	350×270
32	関所あと(新居)	270×350	52	さびしい町(石部)	270×350
33	汐見坂(白須賀)	270×350	53	姥ヶ餅屋(草津)	270×350
34	さまざまな岩(二川)	270×350	54	瀬田の唐橋(大津)	270×350
35	豊橋の城(豊橋)	270×350	55	三条大橋(京都)	270×350
36	いなり様の大將(豊川・番外)	350×270	56	放浪日記 昭和33年～	
37	泊まりたくなる町(御油・赤坂)	270×350	57	放浪日記 昭和34年～	
38	町はずれ(藤川)	350×270	58	絶筆のしおり	
39	矢矧橋(岡崎)	270×350	59	書籍『東海道五十三次』 絵/山下 清 文/式場俊三 毎日新聞社、昭和46年発行	
40	八橋(知立)	270×350			

※作品制作年:1965年(昭和40)から約4年間にわたる取材をもとに、素描による「東海道五十三次」を制作。版画は清没後、記録のためにご家族が制作したもの。

(2) 会期中の普及啓発活動

①ポスター (B2/200枚) チラシ〔左/表面、右/裏面〕(A4/8,000枚)





- ②取材 静岡新聞、中日新聞、サライ.jp (雑誌『サライ』Web)、NHK 静岡放送、読売新聞
- SBS ラジオ「クローズアップマイタウン」(8/26)
- K-mix ラジオ「Green Humming」(8/28)
- SBS ラジオ「クローズアップマイタウン」情報コーナー (8/30)



静岡新聞 8/5 (金)



中日新聞 8/6 (土)



読売新聞 8/28 (日)



朝日新聞 9/3 (土)



ワークショップ 静岡新聞 8/14 (土)



講演会 静岡新聞 8/25 (木)



③団体見学

- 9/16 (金) 浜松市立東小学校 6年生 65人
- 9/27 (火) 曾我小学校 6年生 20人 (引率1名含む)
- 9/30 (金) 智光こども園 11人 (引率3名含む)

(3) 記録写真

①外観 懸垂幕



②エントランス後援表示



③第1展示室《東京～静岡》



④第2展示室《丸子～京都》



⑤ 2F 通路



⑥作品解説



⑦山下浩氏講演会(8/21)



⑧和ランプづくり(8/13)



⑨ちぎり絵ワークショップ(9/23・24)





②-5 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会
〈特別展〉事任八幡宮と日坂宿
－事任八幡宮の宝物と日坂ゆかりの人々－

1 概要

由緒ある事任八幡宮

千年を超える由緒と歴史を有する事任八幡宮は、古くは『延喜式神名帳』に「己等乃麻知神社」と記され、『枕草子/225段』に「ことのままの明神いとたのもし」として紹介されるなど言葉のままに願いが叶う社として現在に至るまで多くの人々の信仰を集めてきた。

今回、神社のご協力を得て今日まで神社に伝わる約2000点もの資料の中から、近世以降のものを中心に初公開した。

日坂宿周辺の歴史と文化

東海道の三大難所の一つ「小夜の中山峠」の西麓に位置する日坂は、江戸時代、東海道五十三次の宿駅に制定され、多くの浮世絵版画に描かれた。また、小夜の中山は平安時代、西行が「年たけてまた越ゆべしと 思ひきや 命なりけり 小夜の中山」と詠んだ場所としても名高い。

さらに、日坂ゆかりの文人を紹介し浮世絵版画とともに、江戸後期から明治にかけて活躍した文人の優れた作品をご覧いただいた。

- (1) 会 期 10月8日(土)～12月4日(日) [開館日数54日間]
- (2) 会 場 掛川市二の丸美術館 (第1展示室・第2展示室)
- (3) 入館料 高校生以上 500円、中学生以下 無料
- (4) 入館状況

総入館者数	2,076人
有料入館者	1,555人
無料入館者	521人
1日平均者数	38.4人

(5) 関連イベント

◆作品解説「由緒ある事任八幡宮」

日 時 10/15(土) 14:00～14:30

講 師 天野 忍 氏 (事任八幡宮古文書調査研究会 代表委員)

参加者 15名

◆作品解説「浮世絵版画と文人たち」

日 時 10/22(土) 10/15(土) 14:00～14:30

講 師 日比野 秀男 (当館館長)

参加者 20名



◆作品解説「日坂宿周辺の歴史と文化」

日 時 11/5 (土) 14:00 ~ 14:30

解 説 当館学芸員

参加者 11名

◆講演会「事任八幡宮の歴史」

日 時 11/12 (土) 13:30 ~ 15:30

講 師 天野 忍 氏 (事任八幡宮古文書調査研究会 代表委員)

会 場 掛川市立中央図書館 会議室

参加者 60人

◆現地見学会「事任八幡宮と日坂宿ぶらり旅」

日 時 11/26 (土) 集合9:30 / 解散12:30

会 場 事任八幡宮・川坂屋

参加者 10人

2 経緯

事任八幡宮では、8年前より神社に伝わる古文書等の調査を行ってきた。令和元年9月に『事任八幡宮資料目録』が刊行され、以来、それをもとにさらに調査・研究を進め、今回『事任八幡宮資料集成』が刊行される運びとなった。当館では数年前より地域の歴史をより多くの方に再認識してもらうための展覧会を開催しており、今回神社の調査・研究の披露の場を設けるとともに、神社周辺地域の歴史を多くの方に認識してもらう機会とするべく開催した。

3 目的

近年、パワースポットとして注目されている事任八幡宮であるが、本展では初公開となる神社の資料を通し、パワースポットとしての側面だけではなく、地域社会の中心として存在した神社の姿を知ってもらうことを目的とした。また、日坂(宿)は多くの浮世絵版画に描かれ、小夜の中山は、古来歌枕として名高く多くの歌に詠まれてきた。本展では、こうした日坂にゆかりのある文人たちも紹介し、豊かな歴史と文化を有する事任八幡宮と日坂宿周辺に対する親しみと理解を一層深めていただくことを期待し開催した。

4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団 (掛川市二の丸美術館) / 掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会 / 静岡新聞社・静岡放送 / 中日新聞東海本社

5 参考 添付データ

(1) 主な展示作品

日坂宿とその周辺 22点 事任八幡宮の歴史と文化 35点

日坂ゆかりの文人たち 13点



作品リスト

第1展示室

NO	資料または作品名	作者	時代	所蔵者
第1章 日坂宿とその周辺				
1	東海道分間延絵図 第9巻 金谷・日坂・掛川			当館蔵
2	東海道五拾三次之内 日坂 (保永堂版)	歌川 広重	天保4年(1833)	当館蔵
3	東海道五拾三次之内 掛川 (保永堂版)	歌川 広重	天保4年(1833)頃	当館蔵
4	東海道五拾三次 廿六 日坂 (隸書東海道)	歌川 広重	嘉永2年(1849)頃	当館蔵
5	東海道五拾三次之内 日坂 (行書東海道)	歌川 広重	天保4～弘化4年	当館蔵
6	五十三次名所図会 廿六 日坂 (縦絵東海道)	歌川 広重	安政2年(1855)	当館蔵
7	雙筆五十三次 日坂	風景画：歌川 広重 美人画：三代豊国	安政元年(1854)	当館蔵
8	東海道五十三次 金谷・日坂	三代豊国	安政4年(1857)	当館蔵
9	東海道五十三次之内日坂 小早川帯刀	三代豊国	嘉永5～嘉永6年	当館蔵
10	東海道 日坂	川瀬 巴水	昭和17年(1942)	個人蔵
11	東海道名所図絵	秋里 籬島	寛政9年(1797)	当館蔵
12	旅道具(提灯、携帯用旅枕、火打石、行李ほか)			当館蔵
13	書 六曲一双	成瀬 大域		川坂屋
14	成瀬大域筆「凌空」	成瀬 大域		蝶庵コレクション
15	書 扇面			当館蔵
16	楠公手沢の硯			当館蔵
掛川ゆかりの洋画家 佐々木信平の描いた日坂				
17	粟ヶ岳遠望	佐々木 信平		当館蔵
18	山間のお寺(粟ヶ岳)	佐々木 信平		当館蔵
19	日坂 高札場	佐々木 信平		当館蔵
20	小夜の中山 久延寺	佐々木 信平		当館蔵
21	事任八幡宮	佐々木 信平		当館蔵
22	東海道 日坂にて	佐々木 信平		当館蔵

第2展示室

NO	資料または作品名	作者	時代	所蔵者
第2章 事任八幡宮の歴史と文化				
23	文禄2年 検地帳(写)		文禄2年(1593)	事任八幡宮蔵
24	慶長9年 検地帳		慶長9年(1604)	事任八幡宮蔵
朱印地の指定と朱印状の交付				
25	寛永13年 訴訟状		寛永13年(1636)	事任八幡宮蔵
26	寛永19年 朱印地石高書上		寛永13年(1636)	事任八幡宮蔵
27	寛永19年 徳川家光朱印状(写)		寛永19年(1642)	事任八幡宮蔵
28	御朱印御継目之節ノ諸控	朝比奈 主計	天保9年(1838)	事任八幡宮蔵
29	朱印箱(小)		江戸時代	事任八幡宮蔵
30	朱印箱(大)		江戸時代	事任八幡宮蔵
31	元和4年 神道裁許状		元和4年(1618)	事任八幡宮蔵



NO	資料または作品名	作者	時代	所蔵者
八幡宮の造営、境内の整備と奉納				
32	慶長 13 年 八幡宮本殿造営棟札		慶長 13 年 (1608)	事任八幡宮蔵
33	元禄 15 年 八幡宮幣殿・拝殿造営棟札		元禄 15 年 (1702)	事任八幡宮蔵
34	事任本宮鰐口		応永 26 年 (1419)	井川薬師堂蔵
35	八幡宮正遷図			事任八幡宮蔵
36	八幡宮絵図			事任八幡宮蔵
37	八幡宮造営図			事任八幡宮蔵
八幡宮の由緒と祭礼				
38	宝暦 10 年 御神輿仕様注文		宝暦 10 年 (1760)	事任八幡宮蔵
39	文化 7 年 御神前音楽太鼓		文化 7 年 (1810)	事任八幡宮蔵
40	文政 13 年 金燈籠一對		文政 13 年 (1830)	事任八幡宮蔵
41	天保 3 年 御神輿渡御一札		天保 3 年 (1832)	事任八幡宮蔵
42	天保年間の祭礼図		天保初年 (1830)	事任八幡宮蔵
43	天保 8 年 風難除祈禱神馬		天保 8 年 (1837)	事任八幡宮蔵
44	弘化 3 年 御神事書式控帳		弘化 3 年 (1846)	事任八幡宮蔵
45	天保年間御定書全		天保年間	事任八幡宮蔵
46	元禄 3 年 八幡領午ノ免定取付帳		元禄 3 年 (1690)	事任八幡宮蔵
47	佐野郡八幡領五人組御掟帳		元禄 17 年 (1704)	事任八幡宮蔵
遠州報国隊				
48	慶応 4 年 報国隊肩章		慶応 4 年 (1868)	事任八幡宮蔵
49	慶応 4 年 大総督府印 (朱印)		慶応 4 年 (1868)	事任八幡宮蔵
50	慶応 4 年閏 4 月 市川口戦争		慶応 4 年 (1868)	事任八幡宮蔵
51	明治元年 軍務官感状		明治元年 (1868)	事任八幡宮蔵
52	明治 2 年 兵部省出仕		明治 2 年 (1869)	事任八幡宮蔵
53	小笠原長堯詠和歌	小笠原 長堯	寛政 2 年 (1790)	事任八幡宮蔵
54	天明 8 年 賀茂真淵像	内山 真龍	天明 8 年 (1788)	事任八幡宮蔵
55	田崎早雲筆の山水画	田崎 早雲		事任八幡宮蔵
56	享和元年 本居宣長和歌	本居 宣長	享和元年 (1801)	事任八幡宮蔵
57	文政 2 年 平田篤胤古道学神号	平田 篤胤	文政 2 年 (1819)	事任八幡宮蔵
第 3 章 日坂ゆかりの文人たち				
58	天保 8 年 (1837) の羅陵王之絵	画：太秦 広光 賛：石川 依平	天保 8 年 (1837)	事任八幡宮蔵
59	石川依平奉納「寿」額	石川 依平	寛政 8 年 (1796)	事任八幡宮蔵
60	石川依平詠 雨乞の和歌	石川 依平	天保 10 年 (1839)	事任八幡宮蔵
61	石川依平翁像	画：喜多 武清 賛：石川 依平		佐都加文庫蔵
62	三星図	大須賀 鬼卯		個人蔵
63	秋の七草	大須賀 鬼卯		蝶庵コレクション
64	長松院十四代肖像	大須賀 鬼卯		長松院蔵
65	釈迦三尊像	大須賀 鬼卯		長松院蔵
66	柳園詠草			嵐牛俳諧資料館蔵



NO	資料または作品名	作者	時代	所蔵者
67	石川先生詠草			佐都加文庫蔵
68	発句懐紙	伊藤 嵐牛		嵐牛俳諧資料館蔵
69	発句	伊藤 嵐牛		嵐牛俳諧資料館蔵
70	嵐牛肖像発句画賛	酔雨画 月査画		嵐牛俳諧資料館蔵

(2) 会期中の普及啓発活動

ポスター (B2/150 枚)



チラシ [左 / 表面、右 / 裏面] (A4/8,000 枚)



(3) 報道機関等の取材 (掲載記事)



中日新聞
10月12日 (水)



朝日新聞
10月22日 (土)



静岡新聞
10月17日 (月)



(4) 記録写真

① 外観 懸垂幕



② エントランス後援表示



③ 第1展示室



④ 第2展示室



⑤ 2F 通路



⑥ 作品解説



⑦ 講演会の様子



⑧ 事任八幡宮と日坂宿ぶらり旅





②-6 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会

2022掛川市民アートフェスタ

掛川市民芸術祭 優秀作品展 二の丸美術館 新収蔵品展

1 概要

掛川市民芸術祭入選作品を展示する「掛川市民芸術祭 優秀作品展」と、美術館テーマ展示として、近年当館が収蔵した作品より油彩画や屏風、掛軸など、和洋の作品を紹介する「二の丸美術館新収蔵品展」で構成した。これに加え「スケッチ画公募作品展」を同時開催した。

- (1) 会 期 12月10日(土)～令和5年1月22日(日)〔開館日数 38日間〕
- (2) 会 場 掛川市二の丸美術館 (第1展示室・第2展示室)
- (3) 入館料 無料
- (4) 入館状況

総入館者数	3,838 人
有料入館者 (※)	104 人
無料入館者	3,734 人
1日平均者数	101 人

※まる得パスポート購入者

2 経緯

市民の創作活動の発表の場として、例年掛川市民芸術祭の優秀作品展示と、スケッチ画公募作品展を組み合わせ、これに加え収蔵品で構成する美術館テーマ展示の三つで構成する展覧会を開催している。

3 目的

市民の作品が主役となる「掛川市民芸術祭優秀作品展」と「スケッチ画公募作品展」は、日ごろの創作活動の発表の場として、そして「二の丸美術館新収蔵品展」は、新しく掛川市に寄贈いただいた作品を広く市民に知っていただく機会となる。展覧会の性格上、来館者は掛川市民が多く、また出品者の家族や友人が作品を見に訪れることから、日頃美術館に縁のない方を、美術や当館につなげる機会となることを期待し開催した。

4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団 (掛川市二の丸美術館) / 掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会 / 静岡新聞社・静岡放送 / 中日新聞東海本社



5 参考 添付データ

(1) 展示作品

第1展示室

No	作品名	作者	制作年	技法
1	百人一首色紙 貼交屏風		貞享4(1687)年	紙本墨書・六曲一双
2	亀鶴年寿	太田 竹城	江戸から明治時代	紙本墨書
3	君子必慎其独也	伊佐 如是	明治18(1885)年	紙本墨書
4	夕陽	川合 改次郎	昭和11(1936)・秋	油彩・板
5	秋の夕	川合 改次郎	大正～昭和	油彩・キャンバス
6	牡丹の図	渡辺 小華	1874(明治7)年 甲戌	絹本着色
7	豆の図	渡辺 小華	1874(明治7)年 甲戌	絹本着色
8	虫の図	渡辺 小華	1874(明治7)年 甲戌	絹本着色
9	葡萄の図	渡辺 小華	1874(明治7)年 甲戌	絹本着色
10	菊花の図	渡辺 小華	1874(明治7)年 甲戌	絹本着色
11	冬の図	渡辺 小華	1874(明治7)年 甲戌	絹本着色

第2展示室

	No	賞	氏名	作品名
書道	【一般の部】			
	1	市長賞	笠原 稔矢	月
	2	教育長賞	江刺家 誠司	観
	3	文化協会長賞	松下 由香	我逢人
	【高校の部】			
	4	市長賞	稲垣 百恵	臨書 鄧石如 白氏草堂碑
	5	教育長賞	原田 おりえ	臨書 孫過庭 書譜
	6	文化協会長賞	山本 司	臨書 王羲之 蘭亭序
彫刻・手工芸	【一般の部】			
	7	奨励賞	須山 陽貴	臨書 褚遂良 雁塔聖教序
	8	奨励賞	赤堀 遥香	臨書 王羲之 蘭亭序
	9	市長賞	枝村 静夫	風神 雷神
10	教育長賞	黒田 美穂	秋色の時季	
11	文化協会長賞	榛葉 轉	明星観音菩薩	
12	奨励賞	菊池 正成	イマメ美術ずりもの	
絵画	【一般の部】			
	13	市長賞	溝口 ふさよ	遊びつかれて
	14	教育長賞	永田 ますみ	舞う
	15	文化協会長賞	伊藤 陽子	参拝への道
	16	奨励賞	夏目 良子	カマキリとバナナの花
	17	奨励賞	杉山 伸二	金魚
	18	奨励賞	山内 早苗	菊花
19	奨励賞	高島 昭子	梅雨さざす	



絵 画	【高校の部】			
	20	市長賞	永田 亘紀	地球ドーム
	21	教育長賞	鈴木 杏梨	手づくりチョココロネ
	22	文化協会会長賞	卯川 幸奈	三次元へ飛び立つ鳥
	23	奨励賞	酒井 美怜	クワガタ…?
	24	奨励賞	井上 結月	もう1人の自分と
	25	奨励賞	山本 茜	にんじん
写 真	【一般の部】			
	26	市長賞	後藤 正徳	神の使い
	27	教育長賞	松浦 茂	潮騒橋の夕景
	28	文化協会会長賞	伊藤 禎昭	風鈴に誘われて
	29	奨励賞	戸塚 康夫	秋陽
	30	奨励賞	三ツ井 道代	ロボくんの散歩
	31	奨励賞	田辺 鉄朗	二人の世界
	【高校の部】			
	32	市長賞	土田 雅博	滴り
	33	教育長賞	鈴木 綺羽	光
34	文化協会会長賞	谷野 日向子	ハート	
35	奨励賞	内山 千愛	そろそろご飯～	
デ ジ タ ル	【高校の部】			
	36	市長賞	田宮 和華	秘密の学校探検
	37	教育長賞	鈴木 那歩	掛川茶天葉プレミアムキャラクター
	38	文化協会会長賞	西川 文	selfie of strawberry girl
	39	奨励賞	水谷 麻琴	アイドル
参 考 出 品	40	書道・審査員	安川 翔歩	躍動
	41	美術・審査員	蔵野 春生	ハッカ飴
	42	写真・審査員	伴野 雄三	スクランブル交差点

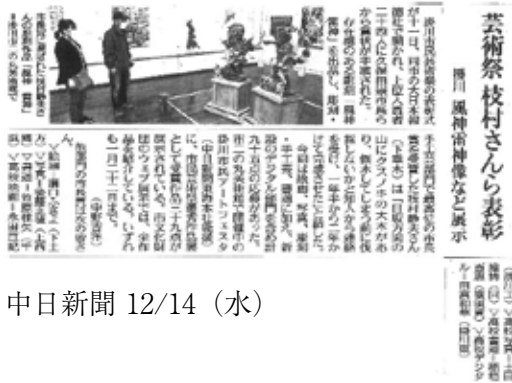


(2) 会期中の普及啓発活動

- ① ポスター (A2/100枚)、チラシ〔左/表面、右/裏面〕 (A4/5,000枚)



- ② 取材



中日新聞 12/14 (水)



すろーかる 12月号

(3) 記録写真

- ① エントランス後援表示



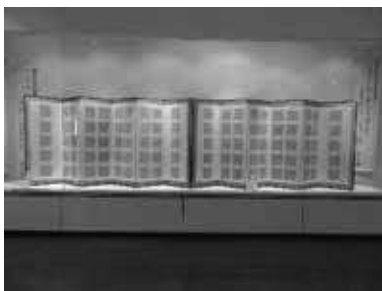
- ② 第1展示室 新収藏品展



- ③ 第1展示室 新収藏品展



- ④ 第1展示室 新収藏品展



- ⑤⑥ 第1展示室 市民芸術祭優秀作品展





②-7 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会
徳川家康と掛川三城ゆかりの武将物語
 - 戦国の世から悩み、苦しみ、生き抜いた武将たち -

1 概要

源氏と平氏の戦い以来、武将たちはいつの時代も戦い、悩み、苦しみながら生き抜いてきた。NHK 大河ドラマ「どうする家康」も三河・遠江を舞台に様々な困難に遭遇してもたくましく生き抜く家康を描いている。

本展覧会は、戦国時代から江戸時代に至る中で活躍した掛川ゆかりの武将たちを紹介するとともに、戦国時代後半から近世にかけて歴史に名を残す舞台となった「掛川城」「高天神城」「横須賀城」の三城について、その魅力をより一層多くの方に知っていただく機会とすべく、「城造りと徳川家康」「家康とゆかりの人々」「掛川三城」の3章構成でご覧いただいた。

- (1) 会 期 令和5年1月28日(土)～3月12日(日) [42日間]
- (2) 会 場 掛川市二の丸美術館 (第1展示室・第2展示室)
- (3) 入館料 無料 (令和4年度 歴史・文化資源活用地域活性化事業のため)
- (4) 入館状況

総入館者数	10,397 人
1日平均者数	247.5 人

(5) 関連イベント

◆ギャラリートーク

	テーマ	担当	参加者数
1/28 (土)	掛川城にみる徳川家康の痕跡	戸塚 和美氏 (城郭研究家)	30 名
2/11 (土)	徳川家康の遠江平定	久野 正博氏 (浜松市立中央図書館)	50 名
2/18 (土)	高天神城の戦い	戸塚 和美氏 (城郭研究家)	60 名
2/25 (土)	「徳川家康と掛川三城」美術資料の見どころ	日比野 秀男 (当館館長)	30 名
3/4 (土)	高天神城と横須賀城の関係について	戸塚 和美氏 (城郭研究家)	50 名

会場：掛川市二の丸美術館展示室

時間：14:00～14:30

◆講演会「『徳川家康の決断』と掛川城」

日 時 2 / 4 (土) 13:30～15:00

講 師 本多 隆成 氏 (静岡大学名誉教授)

会 場 掛川市立中央図書館 会議室

参加者 90 人



2 経緯

掛川市内においては、家康の愛用品などの直接的な美術資料は確認されていないが、家康の異父弟や甥にあたる人物が掛川城主を務めたり、2代将軍秀忠の生母・西郷局ゆかりの地であったりとわずかではあるが家康との関連はあると言える。加えて、掛川市内には立て籠もった今川氏真を家康が攻め、戦国大名今川氏の終焉の地となった「掛川城」、武田軍との戦いで知られる「高天神城」、「横須賀城」といった三城が存在する。

そこで、本展では家康ゆかりの人々、掛川ゆかりの武将たちとともに市内にある戦国時代から近世にかけ歴史に名を残した掛川城・高天神城・横須賀城についてその歴史的概要とともに美術資料、出土品などの関連資料により紹介することとした。

3 目的

掛川ゆかりの武将たちと掛川三城について紹介することにより、市内の方には地域資源の再発見とまちの魅力を再認識する機会となることを、市外の方には掛川の持つ歴史について知り興味を持つ機会となることを期待し開催した。

4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団（掛川市二の丸美術館）／掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会／静岡新聞社・静岡放送／中日新聞東海本社

5 参考 添付データ

(1) 主な展示作品

第1展示室 東照大権現像他2点（前後期で展示替あり）

第2展示室 家康ゆかりの人々関連作品、太田家寄贈品、山内家寄贈品、西尾家関連品、掛川三城出土品等 約70点（前後期で展示替あり）

作品リスト

第1展示室

No	展示期間	資料または作品名	時代	所蔵者	備考
第1章 城造りと家康					
1	前期	築城図屏風	桃山時代	名古屋市博物館	愛知県指定文化財
2	通期	東照大権現像	江戸時代	教覚寺（静岡市）	
3	通期	徳川十六将図	天保10年（1839）	当館	
4	後期	都鄙図屏風	江戸時代	静岡県立美術館	特別出品

第2展示室

第2章 徳川家康とゆかりの人々					
5	前期	徳川家康画像	江戸時代	名古屋市博物館	
6	通期	徳川十六神将図	弘化3年（1846）	佐都加文庫	
7	通期	葵紋散山水蒔絵団扇	江戸時代	華陽院（静岡市）	
8	前期	源氏物語図屏風	桃山時代	華陽院（静岡市）	
9	通期	松平遠江守定吉画像	江戸時代	真如寺（掛川市）	静岡県指定文化財
10	通期	北条氏重肖像画（複製）	江戸時代	袋井市郷土資料館	



11	通期	北条出羽守氏重葬列図	江戸時代	上嶽寺(袋井市)	袋井市指定文化財
12	通期	北条氏重木像	年代不詳	上嶽寺(袋井市)	
13	通期	龍華院棟札	江戸時代	龍華院(掛川市)	
14	通期	龍華院棟札	江戸時代	龍華院(掛川市)	
15	後期	源平合戦図屏風	江戸時代	当館蔵	特別出品
第3章 掛川三城					
16	通期	丸瓦	天正期	掛川市	掛川城跡出土
17	通期	軒平瓦	天正期	掛川市	掛川城跡出土
18	通期	軒丸瓦	天正期	掛川市	掛川城跡出土
19	通期	軒丸瓦(桔梗紋 太田家)	江戸時代	掛川市	掛川城跡出土
20	通期	かわらけ	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
21	通期	金箔かわらけ	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
22	通期	白磁端反皿(中国産)	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
23	通期	青花碗(中国産)	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
24	通期	青花端反碗(中国産)	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
25	通期	青花端反皿(中国産)	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
26	通期	鉄釉丸皿(瀬戸・美濃産)	戦国～安土桃山時代	掛川市	掛川城跡出土
27	通期	鎧・兜	江戸時代	掛川城天守閣(掛川市)	山内豊秋氏寄贈品
28	通期	頭形兜	江戸時代	掛川城天守閣(掛川市)	山内豊秋氏寄贈品
29	通期	陣笠	江戸時代	当館	木下コレクション
30	通期	陣笠	江戸時代	当館	木下コレクション
31	通期	陣笠	江戸時代	当館	木下コレクション
32	通期	十文字槍 銘 武州山城守国重	江戸時代	当館	山内豊秋氏寄贈品
33	通期	遠江国掛川城地震之節損所之覚図	安政2年(1855)	当館	掛川市指定文化財
34	通期	軍配	江戸時代	掛川城天守閣(掛川市)	太田松子氏寄贈品
35	通期	御軍扇	江戸時代	掛川城天守閣(掛川市)	太田松子氏寄贈品
36	通期	丸に太田桔梗紋蒔絵鞍	江戸時代	掛川城天守閣(掛川市)	太田松子氏寄贈品
37	通期	桜花散らし蒔絵鞍	江戸時代	掛川城天守閣(掛川市)	太田松子氏寄贈品
38	通期	銀地鳳凰図象嵌鏡	江戸時代	当館	太田松子氏寄贈品
39	通期	松竹梅蒔絵鞍	江戸時代	当館	太田松子氏寄贈品
40	通期	鎧	江戸時代	当館	山内豊秋氏寄贈品 ロビー
41	通期	灰釉丸皿(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
42	通期	すり鉢(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
43	通期	天目茶碗(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
44	通期	茶入(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
45	通期	高天神城 鉄砲玉	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
46	通期	青磁梅瓶(中国産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
47	通期	三耳壺(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
48	通期	鉄釉丸皿(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
49	通期	鉄釉丸皿(瀬戸・美濃産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
50	通期	皿 華南三彩(中国産)	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
51	通期	陣笠破片	戦国時代	掛川市	高天神城跡出土
52	通期	陣笠(復元)	現代	掛川市	



53	通期	大身槍	室町時代	掛川市立大東図書館	
54	通期	槍	室町時代	掛川市立大東図書館	
55	通期	高天神城 模型	現代	袋井市郷土資料館	
56	通期	高天神城	平成 22 年 (2010)	香川元太郎	
57	通期	高天神城の戦い	平成 8 年 (1996)	香川元太郎	
58	通期	高天神城	平成 10 年 (1998)	香川元太郎	
59	通期	軒丸瓦 (立葵紋 本多家)	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
60	通期	軒丸瓦 (櫛松紋 (9 本) 西尾家)	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
61	通期	軒丸瓦 (櫛松紋 (7 本) 西尾家)	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
62	通期	落書瓦	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
63	通期	染付皿 文庫文様 (肥前産)	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
64	通期	染付皿 ねじ花文様 (肥前産)	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
65	通期	汁注 (瀬戸産)	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
66	通期	鯨瓦	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
67	通期	さざえ	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
68	通期	きせる	江戸時代	掛川市	横須賀城跡出土
69	通期	戸張 (帳) 西尾隠岐守忠成寄進	江戸時代	津島神社 (袋井市)	
70	通期	津島神社棟札	寛永 21 年 (1644)	津島神社 (袋井市)	
71	通期	津島神社棟札	寶永元年 (1704)	津島神社 (袋井市)	

(2) 会期中の普及啓発活動

- ①ポスター (B2/150 枚) チラシ [左 / 表面、右 / 裏面] (A4/8,000 枚)



- ② 謎解き・なぞとき (クイズラリー) (A4 両面カラー / 二つ折り)





(3) 報道機関等の取材 (掲載記事)



中日新聞 1月29日 (日)



静岡新聞 1月31日 (火)



読売新聞 2月14日 (火)



びぶれ VOL787
令和5年2.16号



(4) 記録写真

① 外観 懸垂幕



② エントランス後援表示



③ 第1展示室



④ 第2展示室



⑤ 第2展示室 (後期)



⑥ 2F 通路



⑦ ギャラリートーク (1/28)



⑧ ギャラリートーク (2/11)



⑨ ギャラリートーク (2/18)



⑩ ギャラリートーク (2/25)



⑪ ギャラリートーク (3/4)





②-8 令和4年度 掛川市二の丸美術館展覧会

開館25周年記念

男も女も装身具Ⅱ－江戸から明治・大正期の技とデザイン－

1 概要

二の丸美術館開館25周年記念の特別展として、基軸となる工芸作品「木下コレクション」より秀逸な作品を展示し、25年間の二の丸美術館の軌跡をたどる。

それに加えて木下コレクションの中核を成す煙草道具に、鳥田市博物館の櫛かんざしコレクションを添え、細密装身具を男女の観点から紹介した。鳥田市博物館は、鳥田髷や帯祭りの関連で櫛かんざしをはじめとした女性の装身具を多く所蔵している。櫛かんざし作品を加えることで、25周年に相応しい華やかな色香を添えることができた。

第1展示室では鳥田市博物館の櫛かんざし約150点を、第2展示室では「木下コレクション」より煙草道具約150点を展示した。

(1) 会 期 令和5年3月18日(土)～3月31日(金) [開館日数13日間]

※令和5年度またぎ

(2) 会 場 掛川市二の丸美術館(第1展示室・第2展示室)

(3) 入館料 高校生以上 500円、中学生以下 無料

※着物(羽織・浴衣も含む)でご来館の方を観覧無料とした。

(4) 入館状況

総入館者数	1,122人
有料入館者	793人
無料入館者	329人
1日平均者数	86人

2 経緯

二の丸美術館は、故木下満男氏よりたばこ道具をはじめ、印籠、刀装具、金工品、細密工芸品など約2,300点におよぶ作品と美術館建設資金の寄付を受け、平成10年4月に開館した。これらの工芸作品を総称して「木下コレクション」と呼んでいる。木下コレクションは毎年テーマを定めて公開しているが、今年度は開館25周年にあたる特別な年である。

3 目的

開館25周年に際して、二の丸美術館設立の基盤となった「木下コレクション」を多くの方に知っていただき、美術館の特色をより明確に告知することを目的としている。日本の美意識や伝統文化を再認識し、さらにこれらの作品を後世に継承してゆく責務も担っている。



4 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団（掛川市二の丸美術館）／掛川市
- ②後援 掛川市教育委員会／静岡新聞社・静岡放送／中日新聞東海本社
- ③協力 島田市博物館

5 参考 添付データ

(1) 主な展示作品

第1展示室 櫛かんざし・笄・鬘など約150点（島田市博物館所蔵品）

第2展示室 煙草入れ・きせる・きせる筒など約150点ほか細密小物（二の丸美術館所蔵品）

作品リスト

第1展示室

櫛	20種	鬘	2体
櫛笄揃い物	80種点	かんざし	40種
化粧道具・鏡	2種		

第2展示室

煙草入れ	60種	きせる筒	30種
きせる	40種	印籠	20種
銚子	8種	ほか細密小物	

(2) 会期中の普及啓発活動（チラシ/8,000枚）





③-1 スケッチ画公募・作品展

1 事業概要

美術館教育普及活動の一環として、「みんなの顔、二の丸美術館、掛川城、動物・花、好きな風景」を主題にスケッチ画を募集、展示。出品作品は審査を行い、小学生、中学生、一般の部で優秀賞、奨励賞、計 25 点を選出、会期中にロビーで表彰式を行った。

(1) 公募期間 8月7日(土)～9月12日(日)

応募点数 415 点 (小学生 246 点、中学生 154 点、一般 15 点)

(2) 作品審査

■ 一次審査 9月25日(金)

審査員 山城 道也 氏 (二紀会準会員・日本美術家連盟会員)

■ 二次審査 10月20日(水)

審査員 青野 馨 氏 (ミュージアムサポーター代表)

柳瀬 昭夫 氏 (掛川市教育委員会学校教育課 課長)

山田 京子 氏 (掛川市文化・スポーツ振興課 課長)

日比野 秀男 (掛川市二の丸美術館 館長)

(3) 受賞者 全 25 名 (優秀賞 10 名、奨励賞 15 名)

小学生の部 [15 名 (優秀賞 6 名、奨励賞 9 名)]

賞	学校名	学年	氏名	タイトル
優秀賞	掛川市立第二小学校	4年生	松下 晴歩	大好きな掛川祭
	掛川市立桜木小学校	2年生	高柳 和可	ウグイスとわたしのいえ
	掛川市立横須賀小学校	2年生	コザマ セガワ ライラ	ひまわり
	掛川市立横須賀小学校	2年生	土屋 拓実	クワガタ
	掛川市立横須賀小学校	2年生	高橋 華乃	オウム
	掛川市立横須賀小学校	2年生	戸塚 桃音	きゅうり
奨励賞	横浜市立幸ヶ谷小学校	4年生	松下 葵	掛川城と花鳥園のインコたち
	掛川市立第一小学校	4年生	相馬 葉那	うちのチャボ
	掛川市立城北小学校	2年生	吉岡 凜音	きれいな海の夕日
	掛川市立西山口小学校	2年生	塩谷 芽生	カマキリのかお
	掛川市立西山口小学校	2年生	鈴木 清流	トンボのかお
	掛川市立西山口小学校	2年生	瀬川 桔平	ヘラクレスオオカブトのかお
	掛川市立西山口小学校	2年生	山内 勇雅	テントウムシ
	掛川市立横須賀小学校	2年生	戸塚 将裡	魚
	掛川市立横須賀小学校	2年生	山崎 絢太	魚



中学生の部 [8名(優秀賞3名、奨励賞5名)]

賞	学校名	学年	氏名	タイトル
優秀賞	清水南高等学校同中等部	1年生	油井 亜斗武	ひまわり
	掛川市立西中学校	2年生	増田 明莉	掛川城
	掛川市立西中学校	2年生	出羽 卯生子	フクロウ
奨励賞	掛川市立西中学校	1年生	高塚 くるみ	加茂川と中海遊覧船
	掛川市立西中学校	3年生	小松 千珠留	川 10月4日16時53分
	掛川市立城東中学校	3年生	山本 楓恋	修学旅行でみつけた地元の人が集まるようなあたたかいふんいきの通りを描きました
	掛川市立城東中学校	3年生	松下 璃美	薬師寺 三重塔
	掛川市立大浜中学校	3年生	甲斐 愛美	2年前、家族と見た夏の花火

一般の部 [2名(優秀賞1名、奨励賞1名)]

賞			氏名	タイトル
優秀賞			松本 直次	栗ヶ岳
奨励賞	浜松北高校	2年生	鈴木 那歩	花鳥園のオニオオハシ

(4) 作品展示 期間 12月10日(土)～令和5年1月22日(日)

会場 美術館 ロビー

(5) 表彰式 日時 12月24日(土)10時 小学生の部 14人、14時 中学生・一般の部 4人

会場 美術館ロビー

2 経緯

平成22年に美術館教育活動の一環として始まった本事業は、テーマに沿ったスケッチ画を募集し、応募者全員の作品を館内ロビーで展示している。優秀作品を表彰することで創作意欲の高まりと、展示を通じて地域に密着した親しみやすい展覧会として多くの方に美術館に足を運んでいただくことを目的とし毎年開催している。

3 目的

- ① 絵画の初歩であるスケッチ画を募集し、市民に創作活動への参加を促す。
- ② 応募いただいた作品を展示することで、出品者や家族等が美術館との繋がりをもち身近に感じてもらおう。

4 体制

- ① 主催 公益財団法人掛川市文化財団(掛川市二の丸美術館)、掛川市



5 参考 添付データ

(1) 販促物

① チラシ (A4 /11,000 枚)



② 表彰式 次第 表 / 裏



(2) 記録写真

① 展示風景 1



② 展示風景 2



③ 展示風景 3



④ 表彰式 小学生の部



⑤ 表彰式 小学生の部



⑥ 表彰式 中学生の部





③-2 令和4年度 文化庁伝統文化親子教室事業

1 事業概要

日本に古来より伝わる伝統工芸技法を、重要無形文化財保持者（人間国宝）やその専門技術者より現代の子供たちに伝承する体験型講座。文化庁の助成を受け2016年より毎年実施しているもので、今回はその7年目にあたる。実技的な講習を受ける実地と、その事前解説講座とを組み合わせ年2回開催している。

第1回目は、漆芸分野では初の試みである「沈金（ちんきん）」を取り上げ、その第一人者である鳥毛清（とりげきよし）氏と神垣夏子（かみがきなつこ）氏にご指導いただいた。第2回目は、前年度に引き続き掛川出身の大角幸枝（おおすみゆきえ）氏にお願いした。本年度は、より多くの方に体験して頂けるよう集客率の高い夏休みと秋季に設定した。また、参加可能学年も一学年下げて、小学3年生以上とした。

(1) 開催状況

【第1回目】沈金講座

①解説講座

日時 7/17（日）14：00～15：00

解説 当館学芸員

会場 大日本報徳社内 仰徳記念館

参加者 15名

②体験教室

日時 7/24（日）13：30～16：00

講師 鳥毛 清氏（日本工芸会正会員 漆芸作家）

神垣 夏子氏（日本工芸会正会員 漆芸作家）

会場 掛川市生涯学習センター 工作室

参加者 15名

【第2回目】鍛金講座

①解説講座

日時 10/15（土）14：00～15：00

解説 当館学芸員

会場 大日本報徳社内 仰徳記念館

参加者 24名

②体験教室

日時 10/23（日）13：30～16：00

講師 大角幸枝氏（重要無形文化財保持者・日本工芸会正会員・金工師）

会場 掛川市生涯学習センター 工作室

参加者 23名



2 体制

- ①主催 公益財団法人掛川市文化財団 / 掛川市伝統工芸体験教室実行委員会
- ②協力 公益財団法人日本工芸会 / 公益財団法人岡田茂吉美術文化財団 (MOA 美術館)

3 参考 添付データ

(1) 販促物



(2) 記録写真

【第1回目 沈金講座】





【第2回目 鍛金講座】





③-3

ステンドグラス美術館 ナイトミュージアム・イルミネーション

1 事業概要

屋外から作品を投光し、昼間の自然光とは違う雰囲気のある作品を鑑賞していただく。西側バラ窓は、施設内部から照明効果で夜の美術館の美しさを演出し、作品に対する関心を高めるきっかけにしてもらう。更に、屋外門柱や樹木にイルミネーションを設置し、冬の美術館を広く市民の皆様に鑑賞してもらい、幻想的な空間により豊かな心を育んでいただく。茶エンナーレフェス及びひかりのオブジェ展開会式と併せて行うことで相乗効果を図った。

開催日時

①ナイトミュージアム

日時	入館者数	入館料	タイアップ事業
11/19 (土) 17:00 ~ 21:00	107名	高校生以下 500円 中学生以下 無料	茶エンナーレフェス
12/3 (土) 17:00 ~ 21:00	51名		掛川ひかりのオブジェ展開会式
12/24 (土) 17:00 ~ 21:00	267名	入館無料	二の丸御殿 プロジェクションマッピング

②イルミネーション

期間 11/19 (土) ~ 1/20 (金)

2 体制

①主催 公益財団法人掛川市文化財団 / 掛川市

3 参考 添付データ

販促物





② 記録写真



④-1 ステンドグラス美術館体験講座（小学生講座・出前講座）

1 事業概要

ステンドグラス技法の基礎ともいえる古典技法。その技法を、グリザイユによる絵付けから焼成・組立の工程で簡略化して体験できるのがこの体験講座である。幼少期から本当の美術品に触れる機会を持ち、情操教育に役立てて頂くことを目的としている。

主に小学生を対象とした講座で、フランス製アンティークガラスや顔料などすべて本格的な材料を用いている。出前講座・夏の小学生講座とも、約10cm四方のガラスパネルを制作した。夏休みの講座は、学年により絵付けのみの1日コースと組立までできる2日コースの2択で行った。

(1) 出前講座

掛川市立原田小学校（4年生・2回講座）

開催日時：1回目：令和4年6月9日（木） 午前10：00～11：40 絵付け

2回目：令和4年6月16日（木） 午前10：00～11：40 組立

会場：原田小学校 理科室

受講料：無料

講師：志田政人・草間幸子・布施英憲

参加人数：11名（小学4年）ほか担当教師1名 合計12名

※1回目に絵付け作業、焼成後の2回目に組立てて仕上げる2週にわたる体験講座。原田小学校では本年度4回目となる企画である。

(2) 小学生講座

開催日時：令和4年7月30日（土）～8月4日（木）の6日間

会場：掛川市竹の丸ギャラリー

受講料：1日コース（絵付けのみ）1,500円 / 2日コース（組立まで）3,000円

講師：志田政人・草間幸子・布施英憲

参加人数：総数102名

※今回は電話による募集を一切せず、期間を定めて全てメールによる応募とした。

その結果219名のメールによる応募があり。ただし応募者多数につき、抽選となった。

最終120名が当選、99名が落選となった。

※小学3年生までは絵付けのみ、4年生以上は絵付け・組立両方の作業が可能。

双方とも、自身で描いたガラスパネルが仕上がる仕様。

2 経緯

ステンドグラス体験講座は、2015年のステンドグラス美術館開館時より基本構想のひとつであった。光の芸術品ステンドグラスを見るだけでなく、その歴史や技法も含めて体感してもらうことに意義を見出してきた。当初は大人向けの一般講座のみであったが、小学生をはじめとする子供たちにも体験してもらうことを期待して、昨年に引き続き夏休みの小学生講座と出前講座の2企画を開催した。



③絵付けの練習をする



④ハンダで接合、組み立てる



⑤校内で自然光にかざして見る



⑥作品あれこれ 全12作品

□夏休み小学生体験講座



①描き方の指導を受ける



②先生のお手本を見る



③組立の指導を受ける



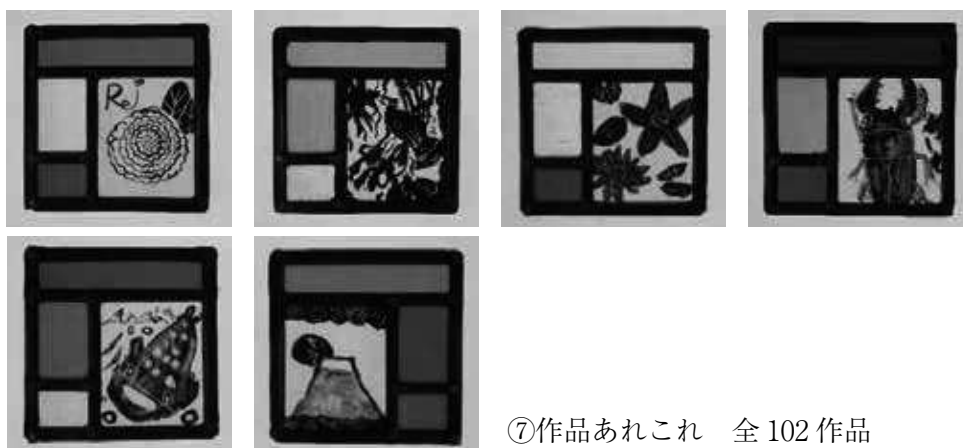
④鉛棧で組み立てる



⑤仕上がった作品を外光で見る



⑥スタンドグラス館内での作品展示の様子
展示期間：8月10日～8月20日の10日間



⑦作品あれこれ 全102作品

⑤ 調査研究

1 館蔵資料保存・整理の状況

(1) 資料の収集

令和4年度末までに収集した資料は、3,657点にのぼる。

二の丸美術館では、美術資料とともに歴史資料の収集も行っており、所蔵資料の範囲は多岐にわたる。資料の一層の充実をめざして、今後とも継続・計画的な資料収集を行う。

(2) 資料の範囲・方針

収集に当たっての基本的方針は次のとおりである。

- 掛川市出身作家および掛川市ゆかりの作品
- たばこ及びたばこ道具、細密工芸品に関する資料、作品
- 掛川城・高天神城・横須賀城に関する資料
- 掛川宿、日坂宿に関する資料
- その他

資料の収集方法は、寄贈の受け入れ、購入、寄託の受け入れなどである。

(3) 資料の管理

展示や研究などの美術館活動の基本となる資料は、市民の財産として永く後世に伝えなければならないが、一方では常に活用できるような状態にしておくことも必要である。

(4) 資料の保存

年間を通じて温湿度を一定に保った収蔵庫を2ヶ所設置し、一方では絵画を、もう一方では工芸品を収納し、それぞれの材質に適した空調を行っている。

光や温湿度の変化に注意を要する資料は、収蔵庫から出す期間をできるだけ短くし、外部環境からの影響をできるだけ小さくするようにしている。また、害虫やカビの発生を防止するため、毎年収蔵庫の燻蒸を行っている。

(5) 資料の修復

収蔵資料で汚損や劣化が激しいものは、専門家による修復を行っている。

(6) 資料の分布

収蔵品の中核となる木下コレクションは、総数2,300点余りと膨大な量で、内容もたばこ道具、刀装具、櫛、筥、印籠など多岐にわたり、現在も整理を行っている。

コレクションのうち、約800点がたばこ入れであるが、たばこ入れは染色・漆芸・金工・皮革など様々な技法を用いているので新たな分類方法が必要となった。そのため独自の分類方法を試みている。



2 資料貸出・利用

No.	資料名	作者	用途	利用期間	利用者	展覧会名等
1	歌川広重《保永堂版 東海道五十三次 掛川》 画像データ		貸出	4/7	(株)メディアム	セキスイハイム東海 情報誌『Pao』 (Vol.46) 特集記事 「東海道五十三次 浮世絵道中」掲載。
2	歌川広重《保永堂版 東海道五十三次 日坂》 画像データ		貸出			
3	桑原喜八郎 解説・写真 パネル(7点)	当館	貸出	4/22～5/3	わ・アート・遠江	「2022 わ・アート・遠江」展(磐田市中央 図書館/4/27～5/1)展示
4	白糸瀑図	村松以弘	貸出	R.5/1/27 ～4/14	静岡市美術館	「東海道之美 駿河への旅」 (R.5/2/11～3/26)
5	画帳「丁亥縮図 乾」	椿 椿山	貸出	R.5/3/8～4/21	板橋区立美術館	「椿 椿山」展 (3/17～4/16)
6	画帳「戊子縮図 乾 第十四」					
7	画帳「戊子縮図 坤 第十五」					
8	画帳「己丑縮図 甲」					
9	画帳「過眼録 天保丁酉 戊戌」					
10	画帳「過眼録 天保壬寅」					
11	画帳「過眼掌記 天保癸卯第一」					
12	画帳「過眼掌記 乙巳第四丙午之壹」					
13	画帳「過眼掌記 自丁未第二至戊申」					

3 新収蔵資料 ※ 全て寄贈

No	作品名	作者	制作年	材質・技法	限定部数	ED No.	サイズ(cm)
1	燕子花図屏風	大久保 一丘	江戸後期	紙本着色 二曲一双			各48.0×163.0
2	菊花軍鶏之図	山下 青崖	昭和13 (1938)年	絹本着色 軸装			126.5×36.8
3	芭蕉栢榴図	渡辺 小華	江戸後期	絹本着色 軸装			132.3×50.8
4	丸子の里(小)	牧野宗則	1966	木版・紙	100	6/100	20.5×14.8
5	南禅寺	牧野宗則	1967	木版・紙	100	6/100	21.0×15.5
6	荷車の里	牧野宗則	1967	木版・紙	50	5/50	39.6×31.5
7	桜島遠望	牧野宗則	1968	木版・紙	100	10/100	54.5×15.0
8	夜明けの詩	牧野宗則	1969	木版・紙	100	37/100	26.8×22.8
9	帰り道(小)	牧野宗則	1969	木版・紙	100	12/100	23.5×27.0
10	丸子の里(長)	牧野宗則	1970	木版・紙	100	53/100	48.9×20.2
11	峠への道	牧野宗則	1972	木版・紙	100	4/100	28.0×24.8
12	山里	牧野宗則	1976	木版・紙	70	7/70	52.8×26.0
13	木陰の釣	牧野宗則	1978	木版・紙	50	23/50	37.5×50.8
14	帰り道(大)	牧野宗則	1978	木版・紙	50	5/50	40.0×51.0
15	嶮山春景	牧野宗則	1978	木版・紙	100	46/100	21.7×48.4
16	秋冷無風	牧野宗則	1978	木版・紙	100	41/100	20.4×48.5
17	高原の富士	牧野宗則	1978	木版・紙	100	4/100	18.3×24.3
18	河口の港	牧野宗則	1978	木版・紙	100	82/100	18.5×23.2

No	作品名	作者	制作年	材質・技法	限定部数	ED No.	サイズ(cm)
19	小川のある風景	牧野宗則	1978	木版・紙	100	35/100	23.4×35.8
20	嶮山朝陽	牧野宗則	1979	木版・紙 額装	30	AP	56.8×86.5
21	桜満開	牧野宗則	1979	木版・紙	50	4/50	55.0×37.8
22	海への想い	牧野宗則	1979	木版・紙	50	13/50	31.9×23.2
23	花曇り	牧野宗則	1979	木版・紙	100	4/100	22.7×50.3
24	夕映えのドーム	牧野宗則	1979	木版・紙	100	80/100	26.8×19.5
25	朝霧の中	牧野宗則	1979	木版・紙	50	9/50	26.0×36.3
26	月影	牧野宗則	1980	木版・紙 額装	30	AP	56.8×86.8
27	月影(小)	牧野宗則	1980	木版・紙	50	8/50	41.8×58.8
28	黎明	牧野宗則	1980	木版・紙	50	33/50	41.8×58.8
29	樹奏	牧野宗則	1980	木版・紙	50	27/50	41.8×58.8
30	早春	牧野宗則	1980	木版・紙	100	82/100	22.7×52.6
31	月明	牧野宗則	1980	木版・紙	100	44/100	47.8×22.4
32	岬の月	牧野宗則	1980	木版・紙	50	5/50	31.8×24.5
33	瓦焼の家	牧野宗則	1980	木版・紙	50	10/50	25.8×37.1
34	花の流れに	牧野宗則	1980	木版・紙	70	42/70	35.0×23.0
35	境内交彩	牧野宗則	1980	木版・紙	70	5/70	35.5×13.7
36	千鶴老松舞	牧野宗則	1980	木版・紙	100	69/100	23.8×17.0
37	朝陽に	牧野宗則	1980	木版・紙	100	48/100	24.8×17.4
38	かきつばた	牧野宗則	1980	木版・紙	100	5/100	17.2×21.9
39	ハラ	牧野宗則	1980	木版・紙	100	5/100	18.8×15.0
40	清澄拝殿	牧野宗則	1980	木版・紙	100	18/100	25.7×37.2
41	深山青彩	牧野宗則	1981	木版・紙	100	11/100	49.3×35.8
42	月下岑嶺	牧野宗則	1981	木版・紙	100	7/100	49.5×35.8
43	有明の月	牧野宗則	1981	木版・紙	100	7/100	35.0×50.0
44	蒼光の里	牧野宗則	1981	木版・紙	100	5/100	35.0×50.0
45	扇面 紅白梅	牧野宗則	1981	木版・紙	100	44/100	23.5×52.5
46	扇面 牡丹	牧野宗則	1981	木版・紙	100	40/100	23.5×52.5
47	花かざり	牧野宗則	1981	木版・紙	100	4/100	34.8×22.8
48	装秋	牧野宗則	1981	木版・紙	100	4/100	43.5×17.0
49	紅旭	牧野宗則	1982	木版・紙	100	6/100	49.3×35.7
50	夕照	牧野宗則	1982	木版・紙	100	6/100	34.8×50.0
51	紅華	牧野宗則	1982	木版・紙	100	5/100	35.0×50.0
52	緑新	牧野宗則	1982	木版・紙	100	20/100	35.0×50.0
53	壮光	牧野宗則	1982	木版・紙	80	6/80	49.5×74.8
54	走り雨	牧野宗則	1982	木版・紙	100	AP	27.0×40.8
55	あかね雲	牧野宗則	1982	木版・紙	150	92/150	17.2×15.2
56	映輝	牧野宗則	1983	木版・紙	125	7/125	49.3×35.7
57	彩雨	牧野宗則	1983	木版・紙	125	11/125	34.9×49.5
58	樹映	牧野宗則	1983	木版・紙	125	19/125	34.7×49.5
59	蒼輝	牧野宗則	1983	木版・紙	125	53/125	34.8×49.5
60	光る海	牧野宗則	1983	木版・紙	125	AP	49.3×35.7
61	光る海(I)	牧野宗則	1983	木版・紙	4283	AP	18.0×13.0
62	光る海(II)	牧野宗則	1983	木版・紙	4292	AP	18.0×13.0
63	思い満ちて	牧野宗則	1983	木版・紙	150	13/150	34.3×23.2
64	山むらさき	牧野宗則	1984	木版・紙	125	14/125	49.0×35.3



No	作品名	作者	制作年	材質・技法	限定部数	ED No.	サイズ(cm)
65	紅木立	牧野宗則	1984	木版・紙	125	40/125	35.0×49.5
66	雪更紗	牧野宗則	1984	木版・紙	80	79/80	73.5×49.8
67	慈しみを染めて	牧野宗則	1984	木版・紙	125	6/125	49.3×35.3
68	歎びの朝	牧野宗則	1985	木版・紙	125	6/125	49.3×35.3
69	月華のままに	牧野宗則	1985	木版・紙	125	5/125	49.3×35.3
70	悠久の刻	牧野宗則	1985	木版・紙	125	5/125	34.8×49.6
71	輝いて	牧野宗則	1985	木版・紙	150	6/150	31.8×22.4
72	満たされて	牧野宗則	1985	木版・紙	150	4/150	31.8×22.4
73	光る道	牧野宗則	1985	木版・紙	125	5/125	49.3×35.3
74	限りなく	牧野宗則	1986	木版・紙	125	5/125	34.8×49.7
75	夢明かり	牧野宗則	1986	木版・紙	125	13/125	49.0×35.3
76	久遠	牧野宗則	1986	木版・紙	125	51/125	49.3×35.3
77	幸せな一日	牧野宗則	1986	木版・紙	185	4/185	22.4×34.7
78	歎びあふれて	牧野宗則	1987	木版・紙	180	6/180	22.3×34.8
79	山の音	牧野宗則	1987	木版・紙	98	4/98	73.7×49.8
80	祥雲	牧野宗則	1988	木版・紙	180	6/180	34.8×49.8
81	天華	牧野宗則	1988	木版・紙	180	6/180	34.8×49.7
82	花菜	牧野宗則	1988	木版・紙	250	4/250	22.4×34.8
83	飛天・華	牧野宗則	1989	木版・紙	500	59/500	16.5×22.5
84	飛天・鼓	牧野宗則	1989	木版・紙	500	55/500	16.5×22.5
85	飛天・笛	牧野宗則	1989	木版・紙	500	59/500	16.5×22.5
86	飛天・琵琶	牧野宗則	1989	木版・紙	500	59/500	16.5×22.5
87	なでしこの花	牧野宗則	1989	木版・紙	250	4/250	35.0×49.7
88	光明	牧野宗則	1989	木版・紙	180	5/180	49.3×74.1
89	百合	牧野宗則	1989	木版・紙	800	6/800	16.4×22.4
90	夜明け	牧野宗則	1989	木版・紙	800	6/800	16.4×22.2
91	有明天界	牧野宗則	1989	木版・紙	180	5/180	73.8×49.8
92	赤い風	牧野宗則	1990	木版・紙	180	5/180	49.3×74.2
93	よききよきとも	牧野宗則	1990	木版・紙	300	4/300	16.7×23.0
94	花の丘	牧野宗則	1991	木版・紙	250	6/250	23.8×49.7
95	祈り	牧野宗則	1991	木版・紙	200	5/200	49.2×35.3
96	優しい日(I)	牧野宗則	1991	木版・紙	250	4/250	18.4×24.3
97	優しい日(II)	牧野宗則	1991	木版・紙	250	5/250	18.4×24.3
98	五彩の海	牧野宗則	1991	木版・紙	250	42/250	49.3×35.3
99	むらさきの風	牧野宗則	1991	木版・紙	250	247/250	34.8×49.7
100	創世	牧野宗則	1992	木版・紙	250	42/250	34.7×49.8
101	普賢転生	牧野宗則	1992	木版・紙	160	97/160	49.3×74.2
102	光を浴びて	牧野宗則	1992	木版・紙	250	6/250	22.4×34.8
103	雪月夜	牧野宗則	1993	木版・紙	250	42/250	22.3×34.8
104	雪嶺	牧野宗則	1993	木版・紙	250	5/250	34.8×49.8
105	歎風	牧野宗則	1994	木版・紙	250	6/250	34.8×49.6
106	花の小道	牧野宗則	1994	木版・紙	250	49/250	18.9×40.8
107	月への小道	牧野宗則	1994	木版・紙	170	49/170	18.9×40.8
108	美しき朝	牧野宗則	1995	木版・紙	200	6/200	49.0×35.3
109	天煌	牧野宗則	1995	木版・紙	250	9/250	34.8×49.6
110	春彩	牧野宗則	1996	木版・紙	250	4/250	18.8×40.7
111	慈光	牧野宗則	1996	木版・紙	225	118/225	34.8×49.7

No	作品名	作者	制作年	材質・技法	限定部数	ED No.	サイズ(cm)
112	STAND BY ME	牧野宗則 風鈴丸	1997	木版・紙	150	9/150	23.7×20.3
113	あけぼの	牧野宗則	1997	木版・紙	250	42/250	16.0×34.9
114	華の風	牧野宗則	1998	木版・紙	225	6/225	34.7×49.7
115	嬉しくて	牧野宗則	1998	木版・紙	280	6/280	18.9×20.4
116	天啓	牧野宗則	1999	木版・紙	250	7/250	33.7×22.9
117	夢のゆくえ	牧野宗則	1999	木版・紙	180	6/180	34.8×49.6
118	妙なる響き	牧野宗則	2000	木版・紙	160	6/160	34.8×49.8
119	天明	牧野宗則	2000	木版・紙	160	13/160	34.7×49.7
120	いのち咲く	牧野宗則	2000	木版・紙	250	245/250	45.8×33.8
121	永遠に	牧野宗則	2002	木版・紙	250	6/250	27.8×21.9
122	心に渡る風	牧野宗則	2002	木版・紙	250	6/250	27.8×21.9
123	Sweet Angel	牧野宗則	2003	木版・紙	180	4/180	直径 32.0
124	夢にめぐる	牧野宗則	2004	木版・紙	150	6/150	34.8×49.8
125	ほほえみ	牧野宗則	2006	木版・紙	185	6/185	26.7×31.8
126	秋の声	牧野宗則	2006	木版・紙	180	5/180	18.8×40.8
127	希望の朝	牧野宗則	2008	木版・紙	250	6/250	19.9×24.3
128	花笑み	牧野宗則	2009	木版・紙	280	6/280	18.3×24.5
129	春のこころ	牧野宗則	2009	木版・紙	170	129/170	33.9×45.8
130	よろこびはふりそそぐ	牧野宗則	2010	木版・紙	170	108/170	33.8×45.7
131	花ごよみ	牧野宗則	2011	木版・紙	100	72/100	34.7×49.8
132	緑のささやき	牧野宗則	2011	木版・紙	135	37/135	16.4×22.4
133	時の調べ	牧野宗則	2011	木版・紙	135	35/135	16.4×22.4
134	慈照	牧野宗則	2012	木版・紙	100	72/100	49.2×35.2
135	日本のこころ	牧野宗則	2013	木版・紙	80	65/80	49.7×74.5
136	天地有情	牧野宗則	2014	木版・紙	100	49/100	34.9×49.8
137	秋桜	牧野宗則	2015	木版・紙	80	32/80	34.9×49.8
138	ふじのくに	牧野宗則	2016	木版・紙	100	62/100	34.9×49.8
139	霊峰讃歌	牧野宗則	2017	木版・紙	50	43/50	49.8×74.7
140	悠々無限	牧野宗則	2019	木版・紙	50	19/50	49.8×74.7
141	希望	牧野宗則	2021	木版・紙	50	19/50	34.8×49.8
142	よろこび	牧野宗則	1965	木版・紙	280	13/280	26.5×13.8
143	観世音菩薩像(永平寺・ 丹羽禅師 讃)	牧野宗則	1979	木版・紙 軸装			93.0×42.0
ブロックアート							
144	KIBŌ NO ASA - AKA I KAZE 希望の朝-赤い風	牧野宗則		木、額装			55.0×80.5
145	YOROKOBI AFURETE 歓びあふれて	牧野宗則		木、額装			37.5×50.5
146	SEI MEI 清明	牧野宗則		木、額装			32.5×50.5
147	SAIU - YUME 彩雨・夢	牧野宗則		木、額装			30.5×45.5
版木							
148	《樹映》版木	牧野宗則	1983	木、額装			40.4×60.0×2.3
149	《むらさきの風》版木	牧野宗則	1991	木、額装			40.4×60.0×2.3
150	《萩小袖》版木	牧野宗則	2000	木、額装			40.4×60.0×2.3
151	《霊峰讃歌》版木	牧野宗則	2017	木			54.5×83.0×2.3



牧野宗則 参考資料(画集・展覧会図録 他)			
No.	資料名	出版社	出版年
152	牧野宗則木版画集	阿部出版	1987
153	牧野宗則木版画展図録	浮世絵太田記念美術館	1992
154	牧野宗則自選木版画集	阿部出版	1992
155	牧野宗則木版画図録	浮世絵太田記念美術館	1997
156	牧野宗則全木版画集(DVD付)	阿部出版	2009
157	牧野宗則全木版画集(太田記念美術館収蔵)	浮世絵太田記念美術館	2009
158	牧野宗則木版画展図録	春仙美術館	2000
159	牧野宗則・風鈴丸ふたり展図録	フェルケール博物館	2020
160	牧野宗則木版画自選集	山下画廊	2000
161	牧野宗則木版画集	泰明画廊	1995
162	風鈴丸・牧野宗則木版画親子展図録	裾野市民文化センター/裾野市	1998
163	WAZAが創る(三田村有純 著)	平凡社	2013
164	よみがえる伝統木版画(版画芸術129号)	阿部出版	2005
165	ファイル[評論・ブックス・アート®・冊子 他]		
166	ファイル[牧野宗則 制作への思い・作品に寄せて]		
167	ファイル[新聞記事 他]		
168	ファイル[展覧会案内状 他]		
169	小冊子「画廊通信」		

4 資料修復

No	資料名/作者	数	制作年	形態等	修復内容
1	当世具足(山内家伝来)	1			胴体と前垂れ、後ろ垂れをつなぐ紐のうち、損傷箇所の交換、クリーニング、中箱作成。
2	《私の村のよっぱらい》 鴨居 玲	1	1970年代頃	油彩・キャンバス	額の固定金具及び低反射アクリルへの交換。
3	ぎんじひかくずかびん 銀地飛鶴図花瓶	1			・地金を傷めない程度に下部銀地の指紋及び肩部から下部にかけての水滴の跡除去。 ・銀象嵌による鶴の酸化黒ずみ及び口部の汚れ除去。 ・高台部分の緑青除去。
4	おうどうじちようずどうがんこうろ 黄銅地 蝶 図象嵌香炉	1			・香炉本体及び象嵌の蝶部分の汚れ及び緑青除去。 ・火屋(表・裏)の酸化汚れ除去と凹み修復。 ・中子の汚れ除去。
5	銀桜花尽くし彫り延べきせる	1		銀	地金と象嵌及び溝部分は古色を残したままとした上で、表面の汚れ除去。
6	銀桜楓彫り羅字させる	1		銀	
7	銀菊花尽くし彫り羅字させる	1		銀	
8	銀観世水彫り延べきせる	1		銀	



⑥ 管理運営

1 入館者数統計

(1) 年度別入館者数

①二の丸美術館

年度	開館 日数	有料入館者数											無料入館者数		計	1日 平均
		美術館のみ		美術館・ 掛川城セット			美術館・ スタンドセット		美術館・ 掛川城・ スタンドセット		周遊券		大人	小人		
		大人	小人	大人	小人	団体	大人	団体	大人	団体	大人	団体				
H10	276	8,039	480	26,820	2,194	—	—	—	—	—	—	—	12,978	2,319	52,830	191
11	270	6,752	281	24,342	1,612	—	—	—	—	—	—	—	2,887	1,052	36,926	137
12	273	6,473	159	22,125	1,500	—	—	—	—	—	—	—	3,467	1,451	35,175	129
13	275	5,110	98	22,395	1,483	—	—	—	—	—	—	—	2,994	1,302	33,382	121
14	277	5,266	107	19,846	1,477	—	—	—	—	—	—	—	7,103	1,456	35,255	127
15	273	4,553	110	21,520	1,405	—	—	—	—	—	—	—	5,953	1,512	35,053	128
16	268	3,967	462	20,926	1,684	—	—	—	—	—	—	—	9,496	2,921	39,456	147
17	280	4,611	79	35,706	1,553	—	—	—	—	—	—	—	17,888	4,237	64,074	229
18	304	5,864	145	81,054	2,739	—	—	—	—	—	—	—	19,092	3,762	112,656	371
19	270	3,428	101	20,368	1,208	—	—	—	—	—	—	—	13,502	3,093	41,700	154
20	269	5,798	104	23,275	1,572	—	—	—	—	—	—	—	5,140	1,181	37,070	138
21	267	4,597	107	20,743	1,176	—	—	—	—	—	—	—	5,437	1,332	33,392	125
22	268	3,105	82	17,596	617	—	—	—	—	—	—	—	5,294	2,313	29,007	108
23	268	2,703	82	19,084	1,526	—	—	—	—	—	—	—	4,163	1,183	28,741	107
24	276	2,538	52	17,160	1,324	—	—	—	—	—	—	—	4,740	1,062	26,876	97
25	273	2,711	68	13,720	727	—	—	—	—	—	—	—	4,261	1,639	23,126	85
26	272	2,602	35	7,408	467	—	—	—	—	—	—	—	4,068	1,277	15,857	58
27	270	4,112	—	3,871	—	883	2,479	208	2,641	574	—	—	5,511	3,231	23,510	87
28	289	5,431	—	2,775	—	545	1,182	515	2,237	794	—	—	4,766	3,467	21,712	75
29	285	8,906	—	3,976	—	755	794	428	2,795	850	18	0	5,445	4,282	28,249	99
30	307	6,892	—	3,689	—	825	710	388	2,267	1,284	370	252	6,022	5,070	27,769	90
R1	283	6,063	—	2,292	—	509	570	254	1,950	708	550	170	6,495	4,361	23,922	85
2	256	7,891	—	394	—	172	335	142	432	177	72	31	4,271	2,501	16,418	64
3	302	6,040	—	470	—	55	443	70	641	114	101	20	4,632	2,718	15,304	51
4	302	9,964	—	—	—	—	1,703	84	—	—	—	—	14,651	3,699	30,101	100
累計	6,953	133,416	2,552	431,555	24,264	3,744	8,216	2,089	12,963	4,501	1,111	473	180,256	62,421	867,561	



②ステンドグラス美術館

年度	開館日数	有料入館者数									無料入館者数		計	1日平均
		美術館のみ	美術館・掛川城セット		美術館・ステンドセット		美術館・掛川城・ステンドセット		周遊券		大人	小人		
			大人	大人	団体	大人	団体	大人	団体	大人				
H27	258	28,662	4,751	1,630	2,537	260	2,677	588	—	—	4,858	6,247	52,210	202
28	323	15,809	3,498	1,280	1,187	520	2,216	766	—	—	3,121	5,419	33,816	104
29	314	10,791	3,417	1,259	767	428	2,807	846	18	0	4,155	5,517	30,005	96
30	359	10,306	3,355	1,134	700	392	2,280	1,288	370	252	2,393	4,917	27,387	76
R1	326	8,607	2,519	1,015	567	254	1,951	718	550	170	2,424	3,919	22,694	70
2	285	8,008	459	206	322	142	434	179	72	31	972	2,681	13,506	47
3	339	8,773	920	208	470	55	641	114	102	22	1,289	3,432	16,026	47
4	338	13,783	—	—	1,631	156	—	—	—	—	2,023	4,203	21,796	65
累計	2,542	104,739	18,919	6,732	8,181	2,207	13,006	4,499	1,112	475	21,235	36,335	217,440	86

(2) 令和4年度月別入館者数

①二の丸美術館

月	開館日数	有料入館者数			無料入館者数		計	1日平均
		美術館のみ	美術館・ステンドセット		大人	小人		
			個人	団体				
4月	24	677	18	4	154	281	1,134	47
5月	29	1,093	432	71	297	379	2,272	78
6月	24	574	204	5	247	77	1,107	46
7月	21	548	221	2	82	99	952	45
8月	26	1,942	249	2	333	477	3,003	116
9月	28	2,219	271	0	355	380	3,225	115
10月	24	1,279	167	0	252	215	1,913	80
11月	28	724	56	0	145	67	992	35
12月	22	186	14	0	1,282	290	1,772	81
1月	24	108	0	0	2,463	425	2,996	125
2月	26	94	0	0	4,757	478	5,329	205
3月	25	520	71	0	4,283	532	5,406	216
合計	301	9,964	1,703	84	14,650	3,700	30,101	



②ステンドグラス美術館

月	開館日数	有料入館者数			無料入館者数		計	1日平均
		美術館のみ	美術館・ステンドセット		大人	小人		
		個人	個人	団体				
4月	28	1,154	18	4	114	469	1,759	63
5月	29	1,544	432	71	147	568	2,762	95
6月	28	891	203	6	149	125	1,374	49
7月	29	854	221	2	164	338	1,579	54
8月	29	1,367	249	2	254	657	2,529	87
9月	28	943	271	0	114	342	1,670	60
10月	29	1,150	167	0	107	209	1,633	56
11月	28	1,194	56	0	373	442	2,065	74
12月	27	857	14	0	320	275	1,466	54
1月	28	1,042	0	0	57	191	1,290	46
2月	26	979	0	0	94	262	1,335	51
3月	29	1,808	0	71	130	325	2,334	81
計	338	13,783	1,631	156	2,023	4,203	21,796	65

(3) 二の丸美術館展覧会 会期別入館者数

項目	掛川藩・横須賀藩	木下コレクション	日本画コレクション	山下清が描く	掛川物語	掛川市民	徳川家康と	男も女も	令和4年度計	
	文化教養の原点	現代着物と帯留物語	近代日本画展	最後の大作	事任八幡宮と日坂宿	アートフェスタ	掛川三城	装身具		
開催期間	4/1～/10	4/16～6/12	6/18～7/24	8/4～10/2	10/8～12/4	12/10～1/22	1/28～3/12	3/18～3/31		
開催日数	10	55	34	56	54	38	42	13	302	
有料入館者	美術館	103	682	594	3,977	822	104	0	302	6,584
	美割	88	424	101	214	116	0	0	33	976
	美術館・掛川城	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	美術館・ステンド	1	532	341	574	183	0	0	71	1,702
	美術館・掛川城・ステンドグラス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	周遊券	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市町村組合	0	22	3	66	32	0	0	7	130
	小笠掛川勤労者組合	0	4	1	32	7	0	0	4	48
個人計	192	1,664	1,040	4,863	1,160	104	0	417	9,440	



有料入館者	団体	美術館	3	45	28	213	54	0	0	35	378
		美術館・掛川城	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		美術館・スタンド	0	77	6	2	0	0	0	0	85
		美術館・掛川城・スタンドグラス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		周遊券	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		まる得パスポート	0	614	168	366	327	0	0	333	1,808
		親子鑑賞券	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		掛川(しずおか)満喫バス	0	6	6	6	14	0	0	8	40
		茶エンナーレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		じゃらん	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体合計		3	742	208	587	395	0	0	376	2,311	
有料入館者合計		195	2,406	1,248	5,450	1,555	104	0	793	11,751	
無料入館者	一般無料入館者	0	262	0	0	0	3,096	9,522	31	12,911	
	中学生以下	55	649	132	961	196	638	875	193	3,699	
	減免(引率者等)	4	41	31	103	56	0	0	18	253	
	減免(身障者)	34	164	68	453	172	0	0	76	967	
	招待状	34	119	23	236	97	0	0	11	520	
	無料入館者合計	127	1,235	254	1,753	521	3,734	10,397	329	18,350	
入館者数合計		322	3,641	1,502	7,203	2,076	3,838	10,397	1,122	30,101	
一日平均人数		32.2	66.2	44.2	128.6	38.4	101.0	247.5	86.3	304.1	

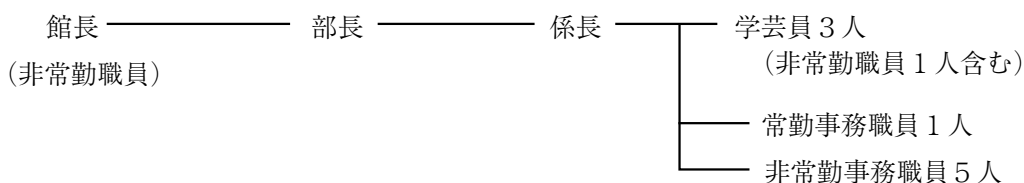
(4) 令和4年度 掛川市スタンドグラス体験講座(掛川市受託事業)

No	講座名	会場	参加人数	内訳		実施日	受講料金額
				大人	小学生		
1	スタンドグラス出前体験講座	原田小学校	12	1	11	6月9日・16日	無料
	計		12	1	11		
2	夏休み小学生講座(前半)	竹の丸ギャラリー	52	0	52	7月30日～8月4日	絵付けのみ 1,500円 組立まで 3,000円
	夏休み小学生講座(後半)	竹の丸ギャラリー	50	0	50		
	計		102	0	102		
合計			114	1	113		



2 組織・決算

(1) 機 構 (令和5年3月31日現在)



(2) 令和4年度決算

●市決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
美術館管理運営費雑入	296
計	296

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
美術館協議会委員報酬	36
美術館協議会運営費	40
美術館管理運営費	100,669
計	100,745

●二の丸美術館決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
指定管理料	66,401
入館料	3,950
物販手数料	25
講座受講料	38
計	70,414

※助成金 持続化給付金、雇用調整金、県博物館助成

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
人件費	33,743
管理費	19,239
事務費	8,754
講座等	345
展覧会	7,514
計	69,595

●ステンドグラス美術館決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
指定管理料	21,105
入館料	7,069
物販手数料	14
計	28,193

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
人件費	20,031
管理費	2,877
事務費	3,671
計	26,579



3 令和4年度 美術館協議会

【第1回】 令和4年8月26日（金）14:00～15:00

掛川市中央図書館 会議室 A

出席者：16人（協議会委員5人、掛川市5人、名誉館長、財団5人）

【議題】

- ①令和3年度 美術館事業報告
- ②市民が美術館に親しむための取り組みについて

【第2回】 令和5年2月16日（木）14:00～15:30

掛川市中央図書館 会議室 A

出席者：18人（協議会委員7人、掛川市5人、名誉館長、財団5人）

【議題】

- ①令和5年度 事業計画について
- ②文化振興計画について

美術館協議会委員 任期2年 令和3年4月1日～令和5年3月31日

氏名	職業等
堀澤光栄	前姫路市書写の里・美術工芸館館長
伊藤賢一郎	資生堂アートハウス館長
海野俊也	(株)静岡新聞社・静岡放送 (株)浜松総局長 (～ R4.6.21)
伊藤充宏	(株)静岡新聞社・静岡放送 (株)浜松総局長 (R4.6.22～)
太田和良	掛川市文化協会副会長
城下俊介	掛川市立城東中学校校長 (～ R4.3.31)
小関昌典	上内田小学校校長 (R4.4.1～)
日沢真紀	大須賀第一地区まちづくり協議会事務局
桑田京子	静岡県書道連盟
石津たつ子	掛川の現代美術研究会役員

美術館講座

「事任八幡宮の歴史」

令和4年度掛川市二の丸美術館 展覧会「掛川物語 事任八幡宮と日坂宿―事任八幡宮の宝物と日坂ゆかりの人々―」の関連企画として、事任八幡宮古文書調査研究会 代表委員の天野忍氏を講師にお招きし講演会を実施した。本講座では、過去8年にわたり行われた事任八幡宮の古文書調査の集大成として刊行された『事任八幡宮資料集成』から、①古代・中世②近世③近現代の資料をそれぞれいくつかご紹介いただき、神社の歴史とともに、地域社会の中心として存在した姿を多くの方に知ってもらうことを目的として開催した。

尚、新型コロナウイルス感染症対策のため参加者を減らし、規模を縮小し実施した。

- 一 開催日時 令和四年十一月十二日(土) 十三時半〜十五時
- 二 会場 掛川市立中央図書館 会議室
- 三 参加料 五百円 全席自由 ※二の丸美術館観覧料含む
※未就学児入場不可
- 四 講師 天野忍氏(事任八幡宮古文書調査研究会代表委員)
- 五 参加人数 六〇人



講演会の様子

事任八幡宮の歴史

日時 令和4年11月12日(土) 13:30~15:00 (受付13:00)

会場 掛川市立図書館 会議室(講演場、二の丸美術館展示室)

聴講料 500円(税込チケットを含む)

申込 10月8日(土)9:00より電話受付(先着50名)

講師 天野 忍氏
独立行政法人国史館 運営人学芸部長
著書、編纂、展示等に関する講演会等
の開催。『事任八幡宮』(日本文学)

◆イベント情報

◆ギャラリートーク
10月15日(土) 天野忍氏(独立行政法人国史館 運営人学芸部長)による
「白羽ある事任八幡宮」
10月22日(土) 日比野秀男(著者)
「浮世絵師と文人たち」
11月 5日(土) 石田杏子(著者)
「日坂宿四町の歴史と文化」

時間 14:30~14:30

会場 掛川市二の丸美術館 展示室
申込不要。当日観覧料が必要です。

お知らせ
当館協賛の協賛社様とお話しします！
『文庫品の楽しみ方・行く車・お土産』
講師 日比野秀男(著者)

日時 令和4年11月6日(日)
9:30~12:00

会場 大日本福祉大学
申込不要・会場へ直接お越しください。

お問い合わせ
掛川市二の丸美術館
〒430-0079 掛川市掛川1-142-1
Tel 0537-62-2061

講演会のチラシ

事任八幡宮の歴史

天野 忍

はじめに

令和四年十月八日から十二月四日まで、掛川城二の丸美術館において、掛川物語「事任八幡宮と日坂宿」―事任八幡宮の宝物と日坂ゆかりの人々―と題して展示会が開催された。

掛川市八坂の事任八幡宮（以下、神社という）では、平成二十六年（二〇一四）より神社伝来の資料調査を進めて二千点余の資料を確認、その成果として令和元年に『事任八幡宮資料目録』、同四年に『事任八幡宮資料集成』を刊行した。

神社の歴史は古く、古くから「日坂の八幡様」とも呼ばれて親しまれてきた。現在、多くの人々の参詣で賑わいをみせているが、従来、神社の資料を公開する機会に乏しく、神社としても「渡りに船」であり、全面的に協力することとなった。美術館の企画は、まさに調査の成果を公表する絶好の機会であった。

この企画展のなかで、参観者に展示資料を紹介し、資料をもとに講演「事任八幡宮の歴史」を開催することができた。神社の歴史には、検討を要する多くの課題があり、それらの分析はまだまだ十分ではない。本稿では、中世から近世において、明らかにしつつある三つのテーマを取りあげ、神社の歴史の一端を紹介することとした。

一 事任本宮の鰐口

田代に伝来の鰐口 かつて井川（静岡市葵区）の薬師堂に、応永二十六年（一四一九）十月、事任本宮に奉納された鰐口が伝来されてきた。薬師堂の堂守で法印の望月伊作氏が平成二十年（二〇〇八）に亡くなり、永享十年（一四三八）八月に薬師堂に奉納された鰐口とともに、田代の諏訪神社宮司を勤める滝浪宏文家で保管されている。

一部に緑青があり、永い間、薬師堂では人目に触れることもなく、堂内に納められていたようである。そのためか、歴史資料として余り注目されてこなかった。昭和の末年ころ、筆者は民俗研究家の小杉 達氏からその情報をいただき、静岡県教育委員会文化課の職員と共に薬師堂を訪ねて鰐口を拝見する機会があった。その後、鰐口の积文は、平成四年（一九九二）三月刊行の『静岡県史』資料編6に収録され、『掛川市史』古代・中世編にも同一の积文が掲載された。平成十二年（二〇〇〇）十二月、静岡市葵区の久保田三郎氏が神社を訪れ、前宮司譽田秀之夫妻と田代への移転経緯などについて意見を交わしており、その後に宮司夫妻も田代薬師堂を訪れている。註①。

鰐口积文の分析 次に、鰐口に刻まれた銘文を掲げる。筆者自身、『事任八幡宮資料集成』編纂の折、鰐口を調査して銘文を確認した。註②。一部『静岡県史』、『井川村のうつりかわり』の积文と異なる。

（銘帯右銘）

遠江国小高御厨内西坂事任本宮御宝前之長等也

（銘帯左銘）

応永廿六年拾月念五日「欠」□寿等謹白

応永二十六年十月五日、「欠」□寿等の呼びかけに応じて、地元の

長たちが遠江国小高御厨内の西坂（後に日坂となる）に鎮座する事任本宮に鰐口を奉納したことが読み取れる。本鰐口は、残念ながら表裏二つに大きく割れ、一部欠損している。

「〔欠〕」「□寿等」の部分は、十分に読み取れないが、おそらく「〔欠〕」の部分には、勸進あるいは願主などの文字があてられるのであろう。とすれば、勸進聖などと呼ばれた人たちが該当すると思われる。彼らは、一般庶民を教化し、仏教の展開に主導的役割を果たしたといわれる。山林に入って断穀不食の過酷な修業を積み、本寺から離れて別所や村里に隠遁したりした。そして、諸国を廻国遊行し、念仏や造寺造仏、写経、鑄鐘、架橋など、はば広い勸進活動を行ったので、穀断（こくだち）聖、十穀聖、別所聖、隠遁聖などと呼ばれた。また、唱導文芸や芸能にも活躍し、唱導聖などと呼ばれたといわれる。

鰐口の奉納からは、やや時代が下るが、廻国聖の活動事例として、聖護院門跡の道興准后が記した「廻国雜記」が著名である。文明十八年（一四八六）六月上旬から長享元年（一四八七）五月まで、約一年に亘って東国を巡歴した折の旅行記である。このなかで、箱根三島（三島市）くかつら山（裾野市）くすはま口（裾野市）く富士のむら山（富士宮市）くあしがら山（小山町）を巡歴している。東海道を經由していると思われるが、東海道掛川での記載はない。しかし、道興の巡歴は、地域で活躍する多くの聖たちに大きな刺激を与えたものと考えられる。

勸進聖たちの働きかけに応じた「御宝前之長等」とは、西坂周辺に住む信心の篤い有力な人たちであり、鰐口鑄造の資金などを負担した、いわゆる神社の氏子たちであったのであろう。しかし、この鰐口がどこで鑄造されたのかは、不明である。

事任本宮の歴史的展開 事任本宮は、神社の本宮として、旧東海道（県道四一五号線）を挟んで神社の西側、標高二〇五・五mを数える本宮山の東側中腹に鎮座する。その参道の登り口に、平成二十三年（二〇一一）四月、神社の崇敬奉賛会によって石鳥居が建立され、その前年には杉山雄吉郎氏によって参道が整備された。二七二段の勾配の急な石段を上ると、事任本宮に辿り着く。現在の社殿は、平成六年（一九九四）の再建である。

事任本宮に関しては、古く『日本文徳天皇実録』や『日本三代実録』に神階を授ける記事が見える。そして、延長五年（九二七）撰進の『延喜式』に、佐野郡四座のうちの一つに挙げられている己等乃麻知神社のことであるといわれている。

本宮の所在地を表わす遠江国小高御厨は、嘉保二年（一〇九五）一月の大江公仲の処分状案に見える小高庄を始まりとする。当地は公仲が父伊州（広経カ）から伝領した所領であったが、国司から開発の許可が得られずに荒野となっていた。そこで右馬頭兼美に寄進し、自らは下級所職を保持して開発にあたったという。天仁元年（一一〇八）、伊勢神宮が提出した「伊勢大神宮神領注文」に、遠江国佐野郡に山口御厨と小高御厨の二つの名が見える。このなかで、山口御厨は延久二年（一〇七〇）、小高御厨は保安二年（一一二二）の建立とある。天承元年（一一三一）、公仲の娘山口得丸は小高御厨上分米を豊受大神宮（下宮）に納めている。

鎌倉時代、小高御厨は上・下の二郷に分けられている。南北朝時代の伊勢神宮遷宮関係資料である『神鳳抄』には、小高御厨は三〇〇丁（町）、山口同所也とあり、上郷内宮領・下郷下宮領と見える。掛川市内に鎮座する神明宮の分布と祭神を調査すると、上と下の境界、すなわち内宮領

と下宮領の境は、掛川市成瀧と同仁藤あたりと想定される。成瀧の神明神社は天照皇大神、仁藤の神明宮は豊受大御神を祀る。東西に走る東海道の東側が概ね小高上御厨、かつての東山口村の地域であり、西側の地域が小高下御厨となる。

事任本宮の所在地は、小高御厨内西坂と刻まれているが、正しくは小高上御厨内西坂となろう。御厨の現地管理の拠点となった本所は、掛川市本所の地に置かれていたと考えられる。

小高下御厨は、建武四年（一二三三）八月の「中御門冬定讓状案」に、さらに文和四年（一二三五）三月の「後光厳天皇綸旨」に見え、以後、戦国の初め頃まで冷泉家の所領として伝領されていく。

田代薬師堂への移転 田代薬師堂への移転の経緯について、『井川村のうつりかわり』によると、かつて東海道小夜の中山周辺で起きた戦乱を避け、山中の田代へと運ばれていったのではないか、という。事任本宮が鎮座する本宮山は、小夜の中山の西側に位置しており、戦乱を避けて移転されたのではないかとする考え方である。

果たして事任本宮の鰐口が辿った運命は、いかがであったのか、不明な点も多いが、筆者は、一つに次に述べる「二 徳川家康への一揆勢の抵抗」と関係するのではないかと、この見方を持つ。一揆の後、神主不在によって神社の本社・本宮とも衰退・荒廃していき、その状況の中で、井川に運ばれたのではないかと、とする。

今一つは、江戸時代における八幡宮本社・本宮祭祀の在り方にヒントがある、との見方である。神社に伝わる慶長十三年（一六〇八）、寛永五年（一六二八）の棟札には、真言宗岩井寺（掛川市）の僧侶が遷宮師を勤めていることが記されているが、貞享二年（一六八五）十一月以降

の造営棟札には、僧侶の名は一切見えない。全て神官が遷宮師を勤めているのである。ここに、従来の神仏習合から唯一神道祭祀へと移行した経緯が読み取れる。このことは、古く元和四年（一六一八）六月の神道裁許状が示す如く、京の吉田家から八幡宮神主に神道裁許状が与えられ、神主家が吉田唯一神道を奉じて吉田家の組織下に入ったことと関係があるろう。このような状況の中、不要となった仏具である鰐口が本宮社からはずされ、何者かによって田代の薬師堂にもたらされたのではないかと、とする。

二つとも、推測の域を出ていないが、後者に分があるように考える。それでは田代の薬師堂に鰐口をもたらした者は、何者であったのか、明らかではないが、あるいは、諸国を遊行し、自在に山中で修業して行動する修験者たちであったのではないだろうか。

註① 『井川村のうつりかわり』（平成二三年）

註② 『事任八幡宮資料集』口絵。重さ、二・二kg

二 徳川家康への一揆勢の抵抗

遠州兎劇と今川氏衰退 永禄三年（一五六二）五月十九日、今川義元が尾張国桶狭間で織田信長に討たれると、盤石であった今川領国では、勢力均衡が崩れていった。

永禄四年の春、三河の松平元康（永禄六年に家康と改名）は、織田信長と和を結んで今川氏から離反し、その勢力は急速に今川氏の勢力圏である東三河の地域に及んだ。氏真は、同年から六年にかけ、三河一宮・御油・牛久保などで激しい戦いを展開し、領国の防衛に努めたが、形勢

は次第に不利となった。

氏真の力量を見限り、元康に内通する遠江の反今川氏の動きは、すでに永禄五年ころから表面化し、引佐郡の井伊氏やその一族の奥山氏なども、今川氏に反旗を翻していた。

永禄六年十二月、突如として引間城（浜松市）の飯尾氏が反乱を起こし、今川領国内は内乱状態となった。これは、飯尾氏のみならず、国人層や中小領主層をも巻き込むほどの規模で展開された。これを遠州怨劇と呼んでいる。

今川氏真の掛川籠城 永禄十一年（一五六九）十二月、今川氏真は甲斐の武田信玄に駿河を追われ、家臣の守る掛川城（古くは懸河の表記であるが、以後、掛川と表記する）に入って籠城した。これを責める家康との間に、掛川城を巡る攻防戦が展開され、翌年の五月、氏真は和睦して掛川城を明け渡している。そして伊豆の戸倉で北条氏政の子の氏直を養子に迎えて今川の名跡を譲り、ここに戦国大名今川氏は滅んだ。因みに、氏真の子孫は幕府の高家となり、明治まで存続した。

これより先の永禄十一年二月、家康は家臣の松平家忠に三河から宇都山城（湖西市）へ移ることを命じ、遠州への侵攻を開始した。四月には、遠江の二俣氏や久能氏らが家康のもとに下り、家康は北遠の天野氏にも内通を呼び掛けている。しかし、甲斐の武田氏に内通する天野氏は、これを断っている。九月になると、遠江の地下人らが味方となり、十二月、家康は井伊谷筋の菅沼・近藤・鈴木三氏の案内を得て遠江に討ち入り、十八日に浜松城に入っている。

そしていよいよ掛川城の攻略に取り掛かり、二十八日、掛川城の四方に砦を築いて包囲網を形成した。これに対して、相模の北条氏は海上か

ら掛川に援軍を送り、翌永禄十二年一月には越後の上杉輝虎に支援を求めていた。十六日、家康は天王山に本陣を敷き、激戦の末に膠着状態となった。

二月、今川氏に属して堀江城（浜松市西区館山寺町）を守備する大沢基胤・中安種豊らと、掛川守備隊との戦況を巡るやりとりが行われた。注①。三月、堀江城は井伊谷筋の菅沼氏らの攻撃を受け、四月には、堀江城が堅固なこと、城内に謀反人が出たこと、兵糧米に窮していること、給人・百姓はじめ加勢二〇名が打ち取られたことなどを伝えている。

日坂八幡山の一揆楯籠 山梨県身延山の「身延文庫」に伝わる「科註拾塵抄 奥書」注②は、堀江の一揆勢三千余人が討たれたと記し、続けて後半に、日坂八幡山（掛川市）で一揆の模様を次のように伝えている。

その後、又日坂八幡山ニ一き楯籠を、これをもせめさせられ候へは、やすくとせめ落、又三千よ人うたる、なり、（後略）

この一揆については、従来ほとんど知られておらず、簡略ながらも、戦国時代末の地域の情勢を伝えていて貴重である。

八幡山とは、戦国期山城の跡が残る本宮山のことである。三千余人の一揆勢は、組織力も弱く、やすやすと家康軍に攻め落とされたという。この一揆は、その後の八幡宮や地域の歴史に大きな影響を与えている。

一揆勢の具体的な構成員は、記されていないが、おそらく本宮山城の城主で、鴨方に本拠を構えた今川氏家臣の賀茂氏、麓の八幡宮の神主、それに周辺の公文百姓である土豪たちが指導者となったと考えられる。そして彼らに率いられて、多くの農民たちが加わったことであろう。一揆勢は、八幡宮に集い、神前において起請文を焼いて水に溶かし、その

水を飲みかわすという一味神水の儀式を行い、団結を誓ったことと考えられる。しかし、組織的軍事力に弱く、武力にまさる家康軍の前にもろくも崩れ去り、多くの人たちが討たれてしまったのである。

ところで、『掛川誌稿』は、加茂加次郎の墓が本宮山の城跡傍らに残る、と記す。一方、本宮山北麓の掛川市大野には、川村富代家の人たちが今も「加次郎様」と呼んで祀る宝篋印塔・五輪塔が残されている。註③。掛川市八坂の影森に、本宮山に火の手が上がり、名越権四郎と称する落武者が池の畔で自害したとの伝承があり、今も五輪塔が祀られている。

八幡宮の神主の姓名は、不明である。江戸時代の歴代神主が朝比奈氏を名乗っているが、このことは、かつて掛川城主朝比奈氏との関わりがあったことを伝えているのではないか。朝比奈氏は今川氏と深い縁戚関係にあり、神主が氏真の呼びかけに応じたわけも理解される。おそらく、一揆の後に責任を問われ、神主職を奪われることとなったのであろう。

討たれた公文百姓たちには、地域の有力者たちが多く、その後の地域社会の構成にも大きな影響を及ぼしたと考えられる。

徳川家康の五か国総検地 家康は、天正十七年（一五八九）から翌十八年にかけて領国の三河・遠江・駿河・甲斐・信濃の五か国で検地を実施した。このことは、「文禄二年検地帳」註④のなかに、僅かであるが、五か国総検地の名残を留める記載が見られることから、確認できる。

五か国総検地では、「七ヶ条定書」を頒布して統一基準を示し、年貢・夫役の制度を画一化した。そして、農民と土地を家康の直接の権力下に置き、全領国から体系的・組織的に戦力を動員しようとしたことが知られる。現在、遠江・駿河に出された「七ヶ条定書」は、一五八点が確認され、事任八幡宮近辺では、日坂村あての資料が知られる。註⑤。おそ

らく、この定書に基き、検地が行われたものと考えられるが、残存する検地帳は、榛原郡・城東郡下のもので、事任八幡宮近隣村落のものはない。註⑥。

「文禄二年検地帳」を検証すると、宮村・鴨方村の西の谷・田中において、名請人の善九郎が耕作する土地、影森村の塩井河原において、太郎馬が耕作する土地等の七件に、太閤検地の畝の表示にあたる部分に「半」の文字が付されているのである。これは、五か国総検地の特徴の一つである小割の制である。

この制は、平安時代から近世初頭まで採用された旧制である。一段は三六〇歩制で、畝の単位はなくて小割は大・半・小制であった。大は、一段の三分の二で二四〇歩、半は一段の半分で一八〇歩、小は一段の三分の一で一二〇歩である。例えば、太郎馬が塩井河原で耕作する半の地積は、一八〇歩で、太閤検地の一畝三〇歩で換算すれば六畝となる。徳川氏は、天正十八年八月の関東入部らしい、一段三〇〇歩で大二〇〇歩、半一五〇歩、小一〇〇歩を用いている。

田畑は上・中・下・下々の四品等に分けられ、石高制への移行でなく、俵高制が採られていた。一豊は、豊臣秀吉の家臣として、太閤検地の基準に従い、検地を実施したが、入部間もない時期の検地にあつては、先例、すなわち五か国総検地の結果と妥協することもあったのである。天正十八年十二月、一豊は天然寺（山名郡下西郷）に対し、先規寺領一六俵・寺中屋敷を安堵している。因みに、元和四年（一六一八）正月、安藤直次家臣矢野正道・安藤忠次連署手形によると、掛川城主前々より寺領二五石を安堵した、とある。

山内一豊の太閤検地 文禄二年（一五九三）、掛川城主山内一豊は所領

内の検地を実施した。その検地の概要は、関ヶ原の戦の後、山内氏が土佐に移る際に作成された「佐野郡在々御検地帳高目録」（『山内家史料第一代 一豊公紀』昭和五五年）に収録されている。そのうち、日坂村について、「日坂村 一〇六石二斗一升 別本二合八才」とあり、続いて村名・領地名を記さない「九九石三升」の石高が見える。

これは、どこの石高であろうか。

神社に伝わる検地帳の表題は、「文禄二年 遠州佐野郡之内日（以下、欠損）とある。一般に検地帳には、検地の日付や役人名、土地所在を示す字名、田畑屋敷などの地種・品位・面積、石盛（斗代）、分米、名請人、総石高などが見える。しかし、この検地帳には、石高算出に必要な斗代や分米の記載がない。土地品位や名請人などには、当初とは筆の異なる記載が見られ、後に多く書き加えられたことが知られるのである。

佐野郡内では、これ以外の検地帳は知られていない。そこで、隣接する榛原郡内の事例を参考に試算してみると、総石高二〇五石二斗八升の数值が得られる。これから日坂村の石高を差し引いてみると、まさに村名などを記さない「九九石三升」の数值と一致する。

慶長九年（一六〇四）九月の「八幡領検地帳」註⑦に見える字名との比較により、概ね八幡宮の社領と一致することが判明した。すなわち、文禄二年の検地帳には、日坂村の石高と八幡宮領とが混在しており、検地帳名は、資料に「日」の一字が見えることから、八幡宮領を含む「日坂村検地帳」となる。『静岡県史』は、これを「宮村検地帳カ」と表記する。

それでは、領地名を記さなかった理由は何か。このことは、永禄末年に起きた一揆の後始末として、家康処断による神主不在の状況のなか、

八幡領と記すことが憚られたのではないかと考える。文禄二年の検地帳には、三反四畝ほどの土地を持つ「神代」と記された名請人が散見する。これは、まさに不在となっていた神主の代理者を指すのであろう。

註①「大沢文書」（『静岡県史』資料編7）

註② 永禄十三年二月、日蓮僧が橋和の妙恩寺で記した資料である。

『武田氏研究』51号（二〇一四年所収）

註③『事任八幡宮資料集成』二一ページ

註④『事任八幡宮資料集成』五二～六七ページ

註⑤『事任八幡宮資料集成』四八～四九ページ

註⑥『静岡県史』資料編7

註⑦『事任八幡宮資料集成』六七～七四ページ

三 芝田彦兵衛の神主補任

芝田彦兵衛の系譜 社伝によれば、関ヶ原の戦の後、家康の戦陣に従って軍忠を尽くした三河の芝田彦兵衛が、天下人家康の命を受けて初代神主の座に就いたという。戦国末年の一揆以来、神社は神主不在の状況にあり、神社を再建して社会の安定を図ろうとする家康の施策のもとでなされたことと考えられる。神社には、文禄二年の検地帳以外、今川氏関係の資料や神社の由緒などを記した原資料は一点も伝わらず、他にその写しすらも伝わっていない。おそらく、再建にあたって、それまでの古い資料は意図的に廃棄されてしまったのであろう。

社伝によると、かつて神社東側の畑地（現茶畑）に、裾幅二間、高さ一間ほどの塚があり、古いものが埋納されていて、永く祀られてきたと

いう。また、譽田家墓苑には、南北朝期や戦国期の宝篋印塔（笠部のみ三基分）が残っており、かつての神社の古い歴史を伝えている。註①。芝田彦兵衛の出自については、次の二つの説が考えられる。

一つは、柴田政之の出であるとする。註②。芝田は、柴田と同じである。柴田氏は、小笠原政康の三男左京友政が三河国額田郡柴田郷に住んで柴田氏を名乗り、その子の左京政信が同国大平城に居住、その二男丹後守政忠の二男が政之であるという。政之に久則・重久・重次・康忠の四子があり、そのうち康忠は家康のもとで軍忠を励み、武蔵国にて采地五千石を賜り、文禄二年五月に五十六歳で没している。子の康長は家康・秀忠に仕え、子孫は旗本として家名を継いでいる。久則・重久・重次は、通称のみの記載である。

他の一つは、伊賀八幡宮（岡崎市伊賀町）神主家の柴田氏の出であるとする。註③。伊賀八幡宮は、文明年中、松平親忠による伊賀からの勧請になり、徳川氏の氏神として尊崇を受けている。寛永十一年（一六三四）から五四〇石もの朱印地を与えられている。柴田氏は、もと徳川氏の旗下にあったが、正勝の時に伊賀八幡宮の神職となった。柴田氏は、神職の世襲制維持のため、三河の竹尾氏（三河山中）や大竹氏（三河岡崎）などと縁戚関係を結んでいる。

二家の柴田氏は、ともに徳川家の家臣団を構成した家筋である。そのなかで、戦国末一揆の余波いまだ残る八幡宮の初代神主には、より強力な武断的な力を持った人物が求められたのではないか。

初代神主となった彦兵衛については、先に挙げた慶長十三年十一月の八幡宮造宮棟札に、神主朝比奈彦兵衛重家と見えている。重家の名乗りからも、二つの系図を比較する限りでは、柴田正之の系図に分があると

考えられ、二男重久、三男重次のどちらかが家康の意を受けて神主に就いたのであろう。重家は、神社の後の系図類では家重となっている。

「譽田家霊簿」には、慶長九年（一六〇四）から寛政七年（一七九五）までの、譽田家との縁戚関係、友人などの死没者の霊号や戒名が、命日毎に記されている。残念ながら朔日から五日までの部分が欠損しており、霊簿には彦兵衛の没年が見えない。幸い、十月十三日の条に、彦兵衛の妻は子隣村（掛川市）角皆次郎兵衛の娘で、清光貞泉禪定尼の戒名が記されている。続いて、彦兵衛に関して「日坂元祖朝比奈豊前 従五位下諸大夫」とあり、『事任八幡宮資料目録』B①⑤の系図に、「朝比奈豊前守藤原家重 従五位 慶長三年叙任」と見える。寛政九年（一七九七）三月改めの「当家代々神祇道唯一神道宗」には、元和三年十一月三日の日付と無閑宗徹の霊号が見える。

慶長九年の八幡領検地 関ヶ原の戦いに勝利した内大臣徳川家康は、武家政権の代表者としての地位を得た。そして、慶長九年（一六〇四）、家康は代官頭の伊奈忠次に命じて遠州総検地を実施、八幡宮の社領が調査された。

神社に伝わる三点の検地資料のうち、九月二十一日付の資料には、地方巧者である兵藤八右衛門・榛葉九蔵・大地忠右衛門の三名の奉行の名が見え、料紙の継目には印鑑が捺してある。末尾には、田畑屋敷合わせで九町九反五畝八歩の面積、一〇〇石四升一合八勺の石高を記す。これは、文禄二年の検地帳のうちの八幡領に相当する部分のものであり、それらは影森村・宮村・池下村・鴨方村・大向村・源兵衛村・奥野村に分布していたことが知られる。

名請人は五十八名を数え、その構成は一町以上が三人で5%、一反以

上が十四人で二四％、一畝以上が三十七人で六四％、一畝以下が四人で七％となっている。このうち、神主は一町八反一畝二歩の土地を有し、石高一九石七斗五升三合と算定されている。次いで影森村の太郎馬と奥野村の助衛門がそれぞれ一町四反余を有している。神主には実名が見えないが、初代神主となった芝田彦兵衛であると考えられる。広い土地は、多くの人たちに小作させていたと考えられる。

家康は、検地によって算定された八幡領を一旦収公し、改めて神社に寄付した、と考えられる。これにより、一〇〇石余の八幡領は、神社を支える経済基盤として認められ、やがて徳川三代將軍家光朱印状の発給へと繋がっていった。

慶長十三年の八幡宮造営 慶長十三年十一月、造営された八幡宮の遷宮が行われた。この本殿を主体とした造営は、神主朝比奈重家・家次の願いを受け、駿府に居住する大御所家康の命によって行われている。家康と代官頭の伊奈忠次が大檀那となり、これに地元の有力者である氏子の榛葉九蔵・安間喜久・菅沼定吉らが支え、大工に袋井木原権現神主家の木原吉家、遷宮師に子隣村の岩井寺の僧が就いた。

これにより、戦国末以来の寂れていた社殿が新たに建て替えられたわけである。家康は、戦後復興の一環として、積極的に社寺の造営を行い、社会の安定に努めた。特に武家の守護神として八幡神を崇拜、彦兵衛の忠義を褒めて、徳川の威信をかけて造営したのであろう。

寛永五年（一六二八）七月、大御所秀忠・代官頭伊奈氏が檀那となり、八幡宮の造作が行われた。神主は、二代榛葉家次である。次いで万治三年（一六六〇）、幕府代官河合助左衛門のもとで造営が行われた。かくして、八幡宮の社殿が整備されたのである。

因みに幣殿・拝殿の新建立は、後の元禄十五年（一七〇二）十月である。

註① 『事任八幡宮資料集成』二〇ページ

註② 『寛永諸家系図伝 清和源氏支流 癸二』（昭和五七年）、『寛政重修諸家譜 卷第三七二』（昭和五九年）

註③ 『新編岡崎市史 近世』（平成四年）

おわりに

以上、講演内容を土台としながら三つの課題を検討した。これにより、神社の中世から江戸初期にかけての歴史の一端を、不十分ながらも明らかにすることができたように思う。

しかし、古代における祭祀や遠州一宮論、八幡信仰と八幡宮、神主家と吉田家の関係、朱印状交付と江戸参府、神社の祭典、造営と経済、国と遠州報国隊など、多くの諸課題が残されている。これらは、今後の検討課題である。

八木美穂『郷里雜記』の諸本について

掛川市二の丸美術館 石田 杏子

はじめに

『郷里雜記』は、横須賀藩学問所教授長も務めた八木美穂が、藩主に命ぜられ調査・編纂を行った横須賀藩領の地誌であり、横須賀藩内の風俗、習慣、産物、動植物などが詳しく記されている。ここでは『郷里雜記』の以下の諸本を比較検討した結果を報告をする。

- 一、大日本報徳社蔵本（図1～図3）
- 一、内閣文庫蔵本
- 一、葵文庫蔵本（静岡県立中央図書館）（図4～図6）
- 一、校正郷里雜記（復刻版）

八木美穂について

ア、出生と国学の道へ

八木美穂は、寛政十二年（一八〇〇）に城東郡濱野村（現在の掛川市浜野）の大庄屋 八木美庸（よしとこ）の長男として生まれた。幼名は金松、次いで林助といい、家を継いでからは金兵衛とも名乗っている。

父・美庸は教育熱心で、美穂は父の指導により幼い頃から四書五経を素読し、和歌・俳句を詠み、貞永寺（掛川市大坂）の大肅（だいしゆく）和尚からは漢籍・仏書も学んだ。その後、国学を志した美穂は文政二年（一八一九）二十歳の時に白須賀宿（現在の湖西市）の夏目甕磨（みかまろ）に入門する。

文政五年（一八二二）に甕磨が旅先で亡くなった後は、独学で学び、歌会や先達の慰霊祭の席で、中山吉埴（よしはに）、石川依平、高林方朗（みちあきら）、加納諸平ら多くの国学者達と交流を深めた。

イ、国学者として

天保三年（一八三二）には、自宅で「誦習庵歌会」を、天保八年（一八三七）からは月次読書会「誦習会」を始め、門弟や近隣の者に学問を教えるようになった。学究に取り組んできた美穂が中山吉埴ら他の国学者達と並ぶ実力を備え、他者に学問を講ずる立場になったことを示すものである。

さらに、弘化二年（一八四五）四十六歳の時藩主西尾忠受（たださか）の歌道の師となったことに伴い、修道館の教授となり、士分に取り立てられた。

嘉永三年（一八五〇）、五十一歳の時には学問所教授長となり城下の枕町（横須賀小学校の近く）に邸を賜り「中林館（ちゅうりんかん）」と名付けた。また、この頃藩主の命を受け作成されたのが『郷里雜記（きょうりざつき）』である。

ウ、美穂の晩年と功績

美穂の学問の領域は幅広く、古事記・日本書紀の研究をはじめ、漢籍、かな音韻、和歌、教育等広範囲に及んだ。著作は先学の研究をさらに解説・要約し学びやすくしたものが多くを占める。濱野の自宅「誦習庵」、横須賀の屋敷「中林館」、藩校等で国学の普及に努めた美穂の元で学んだ者は多く、その数は数百人に及び、遠州に報徳を広めた岡田良一郎も

幼い頃美穂に学んだと言われている。

晩年の美穂はわき腹に痛みを感じる持病があり、これが元で安政元年（一八五四）六月に亡くなった。没後は、掛川市浜野にある三邑院に葬られ現在では屋敷跡が『美穂園』となり石碑が建てられている。

一、郷里雑記について

『郷里雑記』は五巻からなる。各巻の冒頭には、それぞれ「大乃浦」、「夜之呂」、「郷庄」、「新寺」、「生島」を表題とする小文があるが、各小文は内容上、その巻に記載されている地域に関する記述に直接つながるものではない。

（一）『郷里雑記』の内容と諸本

本文の記述は、郷庄と町村についての歴史、名称の由来、地勢、産業、民生、社寺、城、道路など多岐にわたっている。また、産業に関する記述は郷庄ごとにあり、農林漁業その他の産物のみでなく、山野海川の動植物にも及んでいる。どの郷庄も記述形式が同じである。

巻毎の内容

巻一 大渕郷及び横須賀

巻二 大坂・土方・中村・狭東郷

巻三 河東・横地・上内田郷

巻四 山名郡・周智郡・佐野郡

巻五 浅羽庄・於保郷

原本については現在、その存在が不明であるが、以下の諸本が確認されている。小山正氏は著書『幕末國學者 八木美穂傳』（一九六〇年出版）

の中で、『校正郷里雑記』（一九三六年 八木美穂顯彰會）の書序を参考に以下のように挙げている。

小山① 池新田第一小學校藏本

小山② 横須賀撰要寺泉源譽和尚書寫

小山③ 鷺山恭平氏藏本 二種

小山④ 西郷藤八氏藏本

小山⑤ 山崎常磐氏藏本―榛葉俊夫筆寫

小山⑥ 土井雄四郎氏藏（美穂孫）

小山⑦ 中島崇石翁寫本（美穂門人）

小山⑧ 阿部復馬氏藏本―前記撰要寺本はこれによる

小山⑨ 大久保忠尚翁寫本（美穂門人）

小山⑩ 八木金輔氏藏本―今不明

また、『国書総目録』（一九九〇年 岩波書店）には、以下四種類が掲載されている。

国書① 国立国会図書館（二卷一冊）

国書② 内閣文庫（明治〆年写 五卷三冊）

国書③ 葵文庫（五卷二冊）

国書④ 高木文庫（五卷二冊）

はじめに記したとおり、今回確認したのは、『幕末國學者 八木美穂傳』掲載の小山⑤と『国書総目録』掲載の国書②、③と『校正郷里雑記（復刻版）』（一九九一年）の四種類である。ちなみに、『幕末國學者 八木美穂傳』掲載の小山⑤は現在大日本報徳社（掛川市）の所蔵となっている。

この先、便宜上以下の呼び方とする。

『幕末國學者 八木美穂傳』掲載小山⑤ 山崎常磐氏藏本―榛葉俊夫筆寫↓

大日本報徳社本

『国書総目録』 掲載国書② ↓ 内閣文庫本

『国書総目録』 掲載国書③ ↓ 葵文庫本

『校正郷里雜記（復刻版）』 ↓ 復刻本

(二) 各写本の比較検討結果について

ア、記載されている郷庄と町村について

最も大きな差異は、後述するAグループでは「一之巻別巻」として横須賀のことが記述されているのに対し、Bグループではその部分が全く記述されていないことである。その他の部分については全く同じであった。四郡、十四郷、七十二村、十二町

イ、地勢・社寺・山・川など各村の記述について

これについては記載内容から二つのグループに大別できる。一つが内閣文庫本・復刻本（Aグループ）、もう一つが大日本報徳社本・葵文庫本（Bグループ）である。表1～表1-5は領内各町村の記述のあった名称、社寺数などを数えたものである。

表1～表1-5からもわかるように、Aに比べBはかなりの社寺、山水、古跡等を省略している。何か基準があり省略したのか、基準がある場合はどのような基準なのかについては今後さらに記述内容を精査し、比較検討を進める必要がある。また、Bグループとしてまとめた内閣文庫本、復刻本について、掲載されている郷庄と町村名について両本とも同じであったが、いくつかの地勢、寺社、橋の名称が復刻本には記載があるが、内閣文庫本には記載がなかったもので以下に挙げておく。

卷一 遠江国城飼郡大淵郷 西大淵村 大閘ノ谷

卷二 遠江国城飼郡大坂ノ郷 濱野村 玉前大明神

卷五 遠江国城飼郡 中新田村 堀川橋

ウ、筆写の経緯について

大日本報徳社本と葵文庫本は、共に筆写の経緯について記されていない。報徳社本では下巻の巻首に、葵文庫本では下巻の巻末に以下の記述が確認された。

「此五巻は横須賀の御城主なる西尾隠岐守殿の仰言かかぶりて 其殿に仕へまつる濱野の村の八木太郎左衛門美穂ぬしのかかれたるなりければ翁翁なくなられて後 草稿ひと通りのみそのこれりけるをその教へなる見付の総社大久保縫殿助忠尚神主よりかり得て写しつきて俊夫の愚考もかつあれば今一たびよく見て加へんとす 文久元年三月 俊夫」

この記述により筆写に至るまでの経緯について知ることができる。さらに、この記述の「見付の総社大久保縫殿助忠尚神主よりかり得て写しつ」という箇所から、この本は『幕末國學者 八木美穂傳』で挙げられている小山⑨ 大久保忠尚翁寫本（美穂門人）を元に筆写したものであることがわかる。

また、復刻本には昭和十一年に『校正郷里雜記』が出版されるに至った経緯が山崎常磐による序文に書かれていた。

(三) 記述に差異が認められた部分

以下に挙げる箇所の差異が認められた。主に、人々の性状に関する部分である。

卷一 大淵郷

■ 復刻本

「郷中ノ人民世々農ヲ業トス。其海濱ニアル者ハ兼テ捕魚ス。農人利ヲ好デ商買トナル者多シ。工匠最少シ。風流遊手ノ士、遊行好色ノ女都テ有ル事無シ。人情儉嗇ニシテ文華ナラズ。恥ヲ忍デ富ヲ求ル者多シ。雅楽ヲ聞カズシテ俗音ヲ好メリ。凡テ文事ニ慣ハザル故ニ動バ博奕ヲ嗜ム者アリ。數々罰セラルレドモマス、制ヲ犯ス。又白衣神ニ仕フル人ハ佛理ヲ信ジ緇徒僧 侶ハ多ク戒律佛法ノオキテヲ破レリ。」

■ 大日本報徳社本・葵文庫本・内閣文庫本

←

「數々罰セラルレドモマス、制ヲ犯ス」の部分がない。

卷二 大坂郷 濱川新田

■ 大日本報徳社本↓此里モ鹿島明神ノ本土ナルコト云モサラナリレ

ドモ闔里一向宗ノ門徒キテ神恩ヲ知ラズ。

■ 内閣文庫本↓此里モ鹿島明神ノ本土ナルコトハイフモサラナ

リ

■ 葵文庫本↓此里モ鹿島明神ノ本土ナル事ハ云フモサラナレ

ドモ闔里一向宗ノ門徒ニテ神恩ヲ知ラズ。

■ 復刻本↓此里モ鹿島明神ノ本土ナルコト云モサラナレド

モ、闔里一向宗ノ門徒ナリ。

大日本報徳社本では、「闔里一向宗ノ門徒ニテ神恩ヲ知ラズ」という一文が書かれてはいるが、赤線で取り消されており、「サラナリ」と文を終えている。内閣文庫本では、「闔里一向宗ノ門徒」という記述時自

体がなく、葵文庫本では、大日本報徳社本と同様の一文がある。また、復刻本では、「闔里一向宗ノ門徒」という言葉はあるが、「神恩ヲ知ラズ」の部分はない。

卷二 大坂郷 濱野村 潮波道

■ 大日本報徳社本↓古ハ土形狭束郷等ノ里人、儉嗇ニシテ由鹽ヲ買

小不常ニ此道ヨリ海ニ入テ潮水ヲ汲ミテ食鹽ニ

用ヘリト云。

■ 内閣文庫本↓古土形郷狭束等ノ里人ツ子ニコノ道ヨリ海ニ入

テ潮水ヲ汲ミテ食鹽ニ用ヘリト云。

■ 葵文庫本↓古ハ土形狭束郷等ノ里人、儉嗇ニシテ白鹽ヲ買

ハズ常ニ此道ヨリ海ニ入テ潮水ヲ汲ミテ食鹽ニ

用ヘリト云。

■ 復刻本↓古ハ土形狭束郷等ノ里人、此道ヨリ海ニ入テ潮

水ヲ汲ミテ食鹽ニ用ヘリト云。

大日本報徳社本、葵文庫本には「儉嗇ニシテ白鹽ヲ買ハズ」という記述があるが（大日本報徳社本では記述はあるが赤線で取り消されている）、内閣文庫本、復刻本では記述そのものがない。

卷二 中村郷

■ 大日本報徳社本↓郷民皆稼嗇ヲ務ム、或小利ヲ好テ商賣ヲナス。

人情固陋ニシテ佛理ヲ好シ祭神祈祷モ皆寺僧ニ

委ヌ。

■ 葵文庫本↓郷民皆稼嗇ヲ務ム、或ハ利ヲ好テ商賣ヲナス。

人情固陋ニシテ佛理ヲ好ニ祭神祈祷モ皆寺僧ニ
委ス。

■ 内閣文庫本↓記述なし

■ 復刻 本↓郷民皆稼齋ヲ務ム、或ハ利ヲ好デ商賣ヲナス。

大日本報徳社本では書かれてはいるが赤線で消されている。他の写本
については、葵文庫本では全文が書かれ、内閣文庫本は全く記述がない。
復刻本では「郷民皆稼齋ヲ務ム、或ハ利ヲ好デ商賣ヲナス」のみの記述
となっている。

卷二 土方郷

■ 大日本報徳社本↓人情儉齋ニシテ甚陋シ芝居ノ俳優ヲ效テ高キ藝

能ニ擬フ

■ 葵文庫本↓人情儉齋ニシテ甚陋シ芝居ノ俳優ヲ效テ高キ藝

能ニ擬フ

■ 内閣文庫本↓記述なし

■ 校正郷里雜記↓記述なし

「人情儉齋ニシテ甚陋シ芝居ノ俳優ヲ效テ高キ藝能ニ擬フ」の部分
大日本報徳社本では書かれてはいるが赤線で消されており、葵文庫本で
はそのままとなっている。また、内閣文庫本、復刻本では記述そのもの
がない。

卷三 河東郡 池新田村

■ 大日本報徳社本↓人情質ニシテ野シ然シテ強暴ニ近キ者無キニ非

木

■ 葵文庫本↓人情質ニシテ野シ然シテ強暴ニ近キ者無キニ非
ズ。

■ 内閣文庫本↓人情質ニシテ野ナリ。然シテ強暴ニ近シト云ヘ

シ。

■ 復刻 本↓記述なし

大日本報徳社本では記述自体はあるものの赤線で消されており、復刻
本では記述自体がない。また、葵文庫本、内閣文庫本では記述に若干の
違いはあるものの内容は大きな相違はない。

卷四 山名郡 石野村、上貫名村

■ 大日本報徳社本↓此二村等ハ駅路ニ近クシテ人情奢リテ然モ利ヲ

好メリ。故自ラ輕薄ニ移リ易シ

■ 葵文庫本↓此二村等ハ駅路ニ近クシテ人情奢リテ然モ利ヲ

好メリ故自ラ輕薄ニ移リ易シ

■ 内閣文庫本↓此二村等ハ駅路ニ近クシテ人情奢リテ然モ利ヲ

好メリ故自ラ輕薄ニ移リ易シ

■ 復刻 本↓駅路近クシテ人情利ヲ好ミテ奢レリ。故ニ自然

ラ輕薄ニ移リ易シ

大日本報徳社本、葵文庫本、内閣文庫には全く同じ記述があり、復刻
本も若干の違いはあるものの、内容自体は同じである。

二、近世地誌の変遷

ここまで四種類の諸本について比較検討してきたが、そもそも地誌と
は何であろうか。地誌は、各地の地名・位置・地形・気候・集落・交通・

産物・風俗・習慣・伝統・地理歴史等を取りまとめたものであり、その時代の各地の様子（情報）を今に伝えてくれている。日本での地誌の編纂は奈良時代の七一三年（和銅六）に編纂された『風土記』が最古である。中国の地方志の影響を大きく受け編纂された『風土記』は、元明天皇の詔により諸国に郡郷の由来・産物・地味地形・山川原野の名の由来、古老伝承などを中央政府に報告するよう命じられたものであり、諸国は調査の末、解文として報告した。以後、日本では地誌編纂への関心や機運は高まらず16世紀末まで地誌が編纂されることはなかった。再び、編纂への関心や機運が高まったのは徳川家康が天下統一を果たした後、江戸幕府を開き国内の政治体制が安定してからであった。

江戸時代の近世地誌編纂の流れについて、白井哲也氏（参考文献二）は著書の中で3期に分け以下のようにまとめている。

【第1期】

17世紀。領主層に古風土記や中国方志への関心が生まれ、領国地誌としての藩撰地誌が個別に作成された。寛文六年（一六六六）『会津風土記』において、近世地誌編纂の思想は確立されたが、その受容は進まなかった。地域社会では、家譜の作成が進んだ。

【第2期】

18世紀。一国単位の地誌編纂が始まり、『会津風土記』における地誌編纂の思想が次第に受容された。元文元年（一七三六）『五畿内志』はその代表作で、地誌編纂のテキストとして18世紀末まで広範な影響を与えた。地域社会では、村方旧記の作成が進んだ。

【第3期】

19世紀。江戸幕府の日本地誌収集・編纂事業が開始され、そこで生ま

れた日本型地誌の形式が、幕府撰・藩撰地誌に敷衍化された。地域社会では、再興する旧家や村役人の家において家譜の作成が再び始まるとともに、村方旧記の作成が衰退する一方、幕藩領主の地誌編纂の影響を受けた地誌の編纂が始まった。

この経過を見ていくと、今回取り上げた『郷里雜記』は、白井氏が述べた第3期にあたり、幕府によって行われた地誌編纂事業に影響を受けたものだと言えるだろう。しかしながら、一方で気になるのはその成立年についてである。『郷里雜記』の成立年についてははっきりと記録されたものはなく、山崎常磐により書かれた『校正郷里雜記』の序文によれば、藩主西尾忠受侯に召し抱えられ士分に取り立てられた弘化二年（一八四五）から亡くなる安政元年（一八五四）までの間とされている。幕府が本格的に地誌編纂事業に着手したのが享和元年（一八〇一）以降であるから、成立まで時間がずいぶん空いている。この点については、地誌編纂事業が内命に拠って行われたことが大きく関係しているのではないかと考えられる。享和三年（一八〇三）、幕府は昌平坂学問所内に地誌編纂事業の専門部局である地誌調所を設置し、各地の諸藩・諸役所へ向けて地誌編纂の内命を出すと同時に、各地の地誌の収集を始めた。しかし、この事業は全国への触れや達しは発せられることはなく、あくまでも内命によって進められたものであり、幕府の公式事業とはならなかった。そのことと関係してか、各藩の対応は異なり、林述斎や定信の老中退任後その政治方針を継承した堀田正敦は、諸藩への地誌の編纂・提出を機会があることに促したと思われる。横須賀藩の地誌編纂が内命が出されてから約50年後の成立となったのもこのことが影響したと言えるのではないだろうか。ただし、内命が出された享和三年

(一八〇三) に着手された地誌もあり、それが『新編会津風土記』、『甲斐国志』の二つである。どちらも文化年間に入り完成している。その際に編纂の方針とされた内命の内容は左記の3点である。

- ① 本文を「仮名文」＝漢字仮名交じり文で書くこと
- ② 『筑前国続風土記』を手本とすること
- ③ 絵図など図版を入れること

①と②に関しては、今回確認したのは写本ではあるが『郷里雑記』の記述様式も内命に則ったものと言える。

おわりに

昭和十一年に発行された『校正郷里雑記』では十冊の写本が挙げられているが、現在所在が確認できるものは、今回比較した大日本報徳社本(山崎常磐氏藏本―榛葉俊夫筆寫)のみである。今後の課題としてはまず、『校正郷里雑記』に挙げられていた他の写本と原本の探索である。その次に、国書総目録に掲載されていた四種類の写本が『校正郷里雑記』で挙げられていた十冊の中に該当するものがあるのか否かについての確認が挙げられる。それらを行った上で、写本の中でどれが最も優れているか、その中で優劣を見分けた。また、今回調査した各写本にはそれぞれ省略された箇所があったが、省略された社寺、山水、古跡等には共通項はあるのか、また省略するにあたり基準はあったのかどうかについてもあわせて検討を行ってゆくこととする。

表 1-1

卷一 別卷		Aグループ	Bグループ
横須賀	東本町	1	—
	軍全町	3	—
	東新町	5	—
	西田町	0	—
	大工町	0	—
	新屋町	0	—
	十六軒町	0	—
	河原町	4	—
	御城	0	—

表 1

卷一		Aグループ	Bグループ
城飼郡大淵郷	西大淵村	37	2
	今澤新田	2	1
	沖之洲村	8	1
	雨垂村	1	0
	藤塚村	8	3
	濱村	7	3
	中新井村	3	0
	大新井村	7	4
	野賀村	6	2
	岡原新田	3	1
	野中村	4	1
	宮前新田	0	0
	犬侍坂新田	2	0
	清藪谷村	9	3
	三輪村	10	4
	三澤新田	2	0
石津村	4	0	

表 1-3

卷三		Aグループ	Bグループ
城飼郡河東郷	国安村	9	3
	国包村	5	1
	喜衛門新田	0	0
	九兵衛新田	0	0
	成行村	7	1
	来福村	8	2
	坂里村	0	0
	合戸村	4	1
	鹽原新田	1	1
	池新田村	5	0
城飼郡郷名不明	嶺田村	8	2
	堂山村	0	0
城飼郡横地郷	奈良野村	3	1
城飼郡上内田郷	和田村	4	1
	段村	2	0

表 1-2

卷二		Aグループ	Bグループ
城飼郡大坂郷	西大坂村	25	9
	東大坂村	10	2
	三俣村	3	2
	濱川新田	0	0
	濱野村	5	1
	濱野新田村	0	0
	城飼郡土方郷	川久保村	5
旦付新田		2	0
城飼郡中村郷	海戸村	4	1
	下方村	3	1
	公文村	2	0
	毛森村	11	3
城飼郡狭東郷	大石村	7	2
	西之谷村	3	1
	岩滑村	21	2

表 1-5

卷五		Aグループ	Bグループ
城飼郡郷名不明	中新田村	4	1
	同笠新田村	2	1
	東同笠村	2	0
山名郡浅羽庄	西同笠村	2	0
	太郎助村	2	0
	小島方村	3	0
	松山村	2	0
	梅田村	6	2
	東山村	2	0
	松原村	10	1
山名郡郷名不明	岡崎村	10	2
	五十岡里	6	0
	福田村	8	1
山名郡於保郷	二ノ宮村	16	6
	大和田村	2	0
	上大原村	2	0
	下大原村	3	0
	濱部村	2	0

表 1-4

卷四		Aグループ	Bグループ
山名郡郷名不明	石野村	8	1
	法多里	3	1
	菩提新田	2	0
	寶野新田	3	1
	上貫村	6	0
周智郡久野郷	村松村	20	6
周智郡宇苺郷	市場村	6	3
	中村	2	1
周智郡山梨郷	下山梨村	13	1
	上山梨村	20	3
周智郡天方郷	城下村	5	3
佐野郡幅羅郷	宮ヶ嶋村	2	0
	寺田村	9	0
	幡鎌村	3	0
	西山村	5	1
佐野郡曾我庄	各和村	8	1
	岡津村	5	2
	高御所村	2	0
佐野郡山口郷	満水村	4	0
	池下村	3	2

郷里雜記諸本

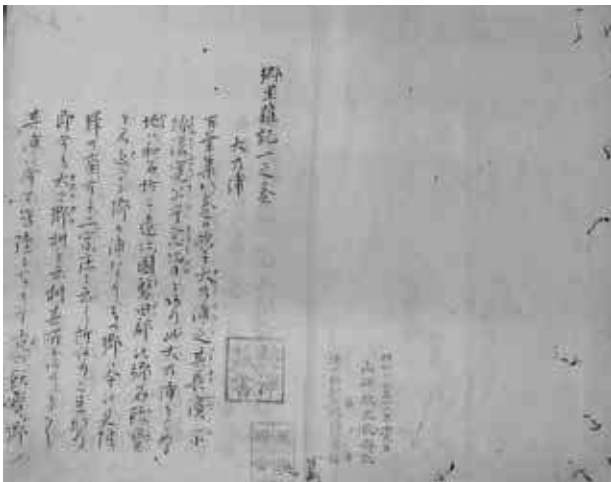


図2. 大日本報徳社本 全2冊のうち第1冊巻頭

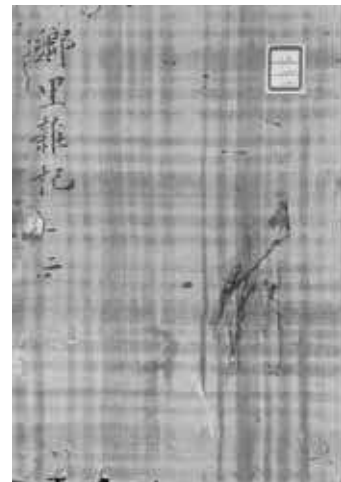


図1. 大日本報徳社本 全2冊のうち第1冊表紙



図4. 葵文庫本 全2冊のうち第1冊表紙

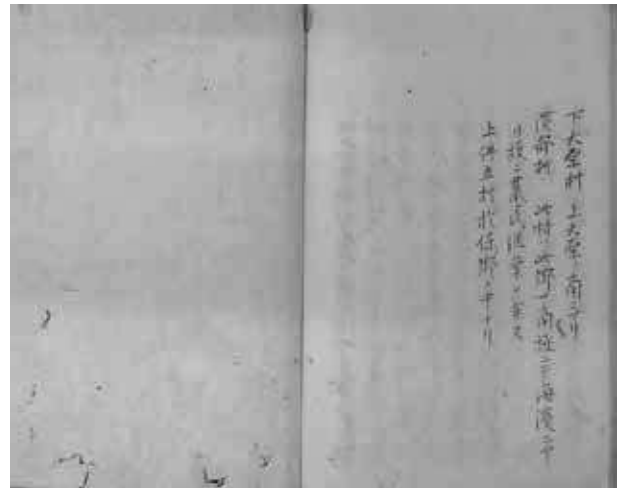


図3. 大日本報徳社本 全2冊のうち第2冊巻末

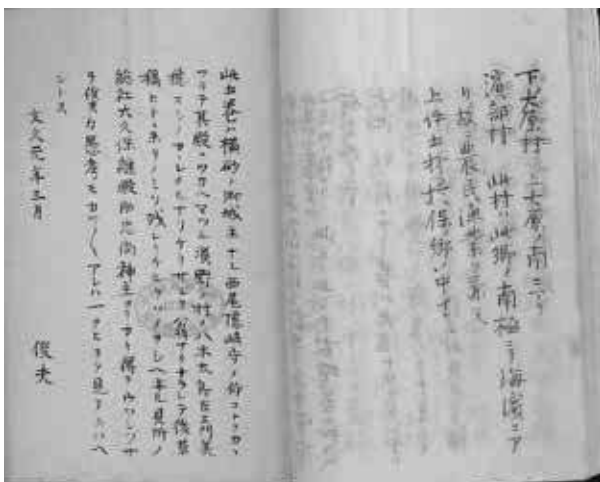


図6. 葵文庫本 全2冊のうち第2冊巻末

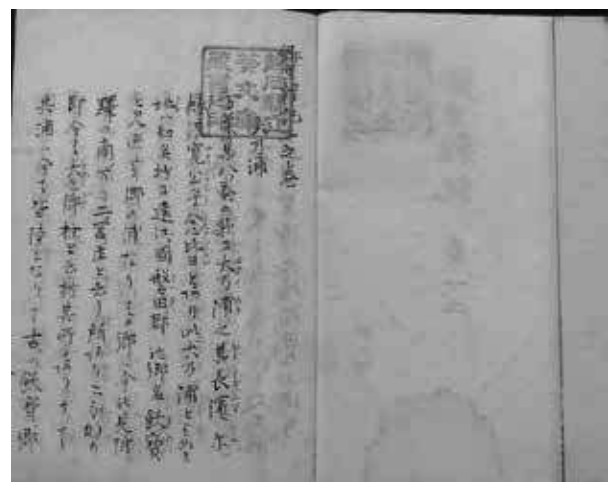


図5. 葵文庫本 全2冊のうち第1冊巻頭

【参考・引用文献】

- 一、静岡県地誌研究会「静岡県の地誌」(『財団法人伊豆屋伝八文化振興財団紀要』第三号、二〇一〇)
- 二、白井哲也『日本近世地誌編纂史研究』(発行者田中周二・発行所思文閣出版、二〇〇四)
- 三、小山正『幕末國學者 八木美穂傳』(八木美穂顕彰会出版、一九六〇)
- 四、岩倉章夫編纂『校正郷里雜記(復刻版)』(大東町教育委員会出版、一九九一)
- 五、村上直編『幕藩制社会の地域的展開』(発行者長坂一雄・発行所雄山閣出版、一九九六)

掛川市二の丸美術館年報 **令和4年度**
掛川市ステンドグラス美術館年報 **令和4年度**

発行日 令和5年8月1日
編集・発行 公益財団法人掛川市文化財団
 掛川市二の丸美術館・掛川市ステンドグラス美術館
 〒436-0079 掛川市掛川1142-1
 TEL 0537-62-2061 FAX 0537-62-2062
印刷所 株式会社ケイ・アート
